

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	英語科指導法							
担当教員	作井 恵子					科目ナンバー	K73410	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第2言語習得理論について基本的な理解をし、それを実際の教室で適応・応用できるようにする。							
授業の概要	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習・指導・評価に関する基本的な知識・指導技術を身につけることを全体目標とする。 この全体目標を鑑み、授業実践に必要な知識として、まず学習指導要領をとりあげ外国語活動・外国語の目標や内容を理解する。また外国語科における小学校の役割を特に小中連携から考察し、そのうえで教材研究、基礎的な第二言語習得理論についても学修する。それと同時に授業実践力を養うため、基本的な指導技術を身につけ、学習目標設定や指導計画、チームティーチング、ICT活用、学習状況の評価など、授業づくりに必要な基本的知識や技術についても振り返りをしながら身につける。							
到達目標	まず英語を学習するうえで基本となる第2言語習得の基本的な概念を理解した後、コミュニケーション能力養成について考えることができる【知識・理解】。またコミュニケーションの視点から語彙・文法・音声・文字指導・評価などについて考察することができる【汎用的技能】。またTT・ICTなど新しい英語教育についても知識・技能を身につけることができる【知識・理解】。							
授業計画	第1回：授業観察：第2言語習得からみる小学校の役割 第2回：学習指導要領 第3回：諸外国の外国語教育事情（多様性を理解する） 第4回：主教材および教材研究について 第5回：場面や状況にふさわしいコミュニケーション能力 第6回：インプットについて 第7回：音声指導・文字指導について 第8回：学習指導案作成について 第9回：教員に必要な教室英語と英語力 第10回：学習目標・指導計画のたてかた 第11回：チームティーチングについて 第12回：ICTを取り入れてみよう 第13回：評価とは 第14回：模擬授業とその振り返り 第15回：授業総括と定期試験 第16回：児童英語の実践（ゲストスピーカー）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	与えられた課題について予習・復習を含め週4時間ほど授業外学習をすること。また模擬授業の場合はそれに加えて必要時間を費やし周到に準備すること。							
授業方法	講義							
評価基準と評価方法	定期試験 50％、模擬授業 30％、授業への参加度 20％							
履修上の注意	やむなく欠席する場合は事前に教員にメールで連絡すること。							
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編（平成29年7月）978-4304051685 小学校英語科教育法 金森 強（編著）SEIBIDO ISBN978-4-7919-7196-1（「児童英語」で購入済み） New Horizon 1年生 978-4487122912 New Horizon 2年生 978-4487122929 New Horizon 3年生 978-4487122936 New Crown 1年生 978-4385705118 New Crown 2年生 978-4385705125 New Crown 3年生 978-4385705132							
参考書	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	音楽科指導法							
担当教員	樫下 達也					科目ナンバー	K73380	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校音楽科の授業づくり（教材研究・学習指導案作成）に必要な知識・技能を身につけ、模擬授業として実践する。							
授業の概要	音楽教育の意義を理解するために、わが国の初等音楽教育の歴史について学び、そのうえで現在の学習指導要領における音楽科の目標と内容を学ぶ。音楽科における教材研究の視点や評価の方法について学んだうえで、表現・鑑賞の教材研究、および情報機器を効果的に活用する事例の検討を行う。歌唱共通教材および教科書掲載楽曲の、教材としての価値を理解し、これを生かした指導案を作成し、模擬授業で実践する。以上の取り組みを通して「音楽科」を担当するために必要な具体的・実践的な知識と技能を身につける。							
到達目標	初等音楽教育の意義について歴史的視点から理解したうえで、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な音楽科教育の方法を理解する【知識・理解】。小学校学習指導要領に示された音楽科の教育目標と指導内容を理解し、これを実現していくための指導技術を身につける。【知識・理解】【汎用的技能】情報機器を活用した音楽科授業の可能性を探究するとともに、適切な教材・教具の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけ、具体的な授業場面を想定した授業を構想することができる。【汎用的技能】							
授業計画	第1回 ガイダンス：公教育における音楽教育の意義 第2回 音楽科授業の構築に必要な力とは：模擬授業を体験しよう 第3回 音楽教育の歴史：「音楽を」教えるのか「音楽で」教えるのか 第4回 小学校学習指導要領における音楽科の目標と内容 第5回 音楽科における教材研究：教材・教具・教育内容 第6回 音楽科の評価と指導計画 第7回 鑑賞教材の研究：情報機器を活用した音楽鑑賞の可能性 第8回 歌唱教材の研究（1）：子どもの歌声の発達と発声指導の実際 第9回 歌唱教材の研究（2）：歌唱共通教材の意義と指導の実際 第10回 器楽教材の研究：リコーダーの導入と指導の実際 第11回 音楽づくりの指導：情報機器を活用した音楽づくりの実習 第12回 音楽科学習指導案の作成と検討 第13回 模擬授業と検討会（1） 第14回 模擬授業と検討会（2） 第15回 まとめ：講義の振り返りとレポートの作成							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	本授業では模擬授業のための教材研究および学習指導案の作成を各自が授業外に作成する必要がある。授業内で示された理論を復習しながら模擬授業で扱う教材について文献等を用いて調べる。また同様に授業での学習を前提に指導案を作成し、それを授業内で発表、ブラッシュアップしていく。したがって、これらの授業時間外における学習は授業の復習と予習を兼ねており、最低でも週あたり4時間程度を要する。							
授業方法	本授業では講義形式のみならず下記のようなアクティブ・ラーニングを行う。 ・模擬授業に向けた教材研究および学習指導案の作成は基本的にグループで取り組み、その進捗を発表し、議論しながら授業を進める。 ・音楽科指導に必要な音楽的技能の習得をめざして歌唱、器楽、創作、鑑賞の活動を実際に行い、それらの活動を振り返る議論をしながら学習を深める。							
評価基準と評価方法	授業中の小テスト（30％）、レポート（指導案作成を含む、40％）模擬授業（30％）							
履修上の注意	模擬授業の準備など責任感をもって学習に取り組むこと。							
教科書	笹野恵理子編著『初等音楽科教育（はじめて学ぶ教科教育7）』ミネルヴァ書房、2018年。（前期購入済）978-4623081608 文部科学省『小学校学習指導要領』2017年。978-4491034607							
参考書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年7月） 初等科音楽教育研究会編『最新初等科音楽教育法：小学校教員養成課程用』音楽之友社							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	村岡 弘朗					科目ナンバ	K73610
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	介護等体験実習を有意義なものにするための意識の変容と資質の向上を図る。						
授業の概要	この授業では介護等体験の意義、つまり個人の尊厳や社会連帯の理念に対する理解を深めることをねらいとしている。そこで、社会福祉に関する知識と理解、障害者や高齢者の介護や援助、そして参加と連帯の精神などを活かして、実際の介護等体験を充実させる必要がある。そのために、障害児や施設利用者への配慮、コミュニケーションの取り方、職員との接し方、施設での取り組みなどを探究していく。こうした学びと、介護等体験として経験し、その経験を振り返ることで、学校教育にいかに応用するのかについて学ぶ。						
到達目標	・介護等体験実習に向けて、それぞれの学校や施設及び利用者の現状や実態を把握し、有意義な介護等体験実習をすることができる。【汎用的技能】 ・介護等体験実習に向けて、実習上の心構えや態度などを養い、介護等体験実習を通して学んだことをまとめ、分かりやすく発表できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：介護・介助等の意義と目的等についてノート整理（2時間） 第2回 特別支援学校の概要と実態についてノート整理（2時間） 第3回 特別支援学校での介護等体験に取り組む心構えをまとめる（2時間） 第4回 社会福祉施設での介護等体験に取り組む心構えをまとめる（2時間） 第5回 社会福祉施設の現状及び問題・課題について考えをノートにまとめる（2時間） 第6回～第12回 特別支援学校及び社会福祉施設への訪問・介護等体験の記録と感想をまとめる（2時間×7回） 第13回 特別支援学校での介護等体験の振り返り、レポートにまとめる（2時間） 第14回 社会福祉施設での介護等体験の振り返り、レポートにまとめる（2時間） 第15回 体験修了者の体験発表を聞き、感想をまとめる（2時間）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：参考書の該当箇所を目を通し、課題意識をもって授業に臨む。（2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。（2時間）						
授業方法	講義：重要な点について講義し、テーマについてグループで検討し、全体に発表する。また、本時に学んだことを振り返り、まとめをする。 発表：体験後、自分の体験を振り返り、学んだことを発表する。						
評価基準と評価方法	・平常点 40%（発表、ワークシート） ・体験レポート 40% ・体験先の評価の参考 20%						
履修上の注意	特別支援学校、社会福祉施設での体験が充実するためにも、事前指導をしっかりと受ける。授業回数の3分の1以上欠席した人は、原則単位認定しない。						
教科書	なし						
参考書	「教師を目指す人の介護等体験ハンドブック」（現代教師養成研究会編）大修館書店						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科研究						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバー	K73510
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深める。						
授業の概要	まず、家庭科が教科として成立し、現在に至るまでの経緯を概観する。次に、現状の家庭生活における諸問題や、賢い消費者として身につけるべき基本的な知識と技能を確認する。その中で、家庭科が、小学校高学年の児童のいかなる面に働きかけ、いかなる力を伸ばすことを目指すのかを考える。 また、家庭科の各領域で用いられる教材を、実際に手で触れて、体験する学習活動を行うことで、よりよい教材研究のあり方を検討する。これらの活動を通じ、児童が「たのしみ・わかり・できる」指導を行うための基礎的知識を身につける。最終的には1時間分の学習指導案を作成する。						
到達目標	(1) 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。【知識・理解】 (2) ICT機器を活用した教材・題材開発ができる。【汎用的技能】 (3) 家庭科の学習評価の考え方を理解している。【知識・理解】 (4) 学びの成果を積極的に自らの生活改善に活用しようとしている。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：家庭科を振り返る 第2回 家庭科の背景学問と教科変遷 第3回 世界の家庭科と様々な教材 第4回 学習指導要領の構成と教科目標 第5回 学習指導要領と学習指導案 第6回 本時の目標と観点別評価 第7回 中間試験と解説・質疑応答 第8回 生活自立と家庭科の学習内容 第9回 いのち・家族・保育と家庭科の学習内容 第10回 衣食住と家庭科の学習内容 第11回 消費生活・環境と家庭科の学習内容 第12回 アナログ教材と家庭科の学習内容 第13回 ICT教材と家庭科の学習内容 第14回 対話的・主体的で深い学びの実践例と評価 第15回 終講課題と解説・質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業について、理解が不足している点を復習すること(2時間)。 次時の授業に向けて、自分の身近な生活環境を振り返り、関連する事項を整理するなど、主体的な学習に臨むための準備を行うこと(2時間)。						
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。 さらに、視聴覚教材の学習や実際の家庭科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。						
評価基準と評価方法	・平常点（授業時の小レポート、受講姿勢など）40% →到達目標(2)および(4)に対応 ・中間試験30% →到達目標(1)および(3)に対応 ・学習指導案の作成20% →到達目標(2)に対応 履修カルテの評価は「意欲」「関心」「適性」の3観点とする。						
履修上の注意	・出席および授業への参加態度、姿勢を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（家庭編）』（2018年）						
参考書	中間美砂子編著『小学校家庭科の指導』建帛社 2015年						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	家庭科指導法						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバー	K73400
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科研究で学んだ知識を生かし、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い授業実践力を養う。						
授業の概要	小学校高学年という発達に応じた生活体験や生活状況に配慮した上で、児童の興味関心を引き出し、児童の内面での学習動機付けを喚起することが重要である。そのため、授業で用いる教材やテーマは、児童にとって具体的かつ、一般化しやすいものであるかどうか検討できるようにする。本講義では、児童が生活に関心を深め、自らの生活を変革する意識と実践力、およびICTを活用した効果的な学習への理解を身につけられるような指導方法を考える機会としたい。また、調理実習や被服実習に加え、主権者及び消費者教育の充実の観点から、スマートフォンを利用した契約の仕組みをテーマにした模擬授業の立案と実践などを取り入れる。						
到達目標	(1) 子供の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。【知識・理解】 (2) 家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。【知識・理解、汎用的技能】 (3) 学習指導案に基づいた模擬授業実践ができる。【汎用的技能】 (4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。【汎用的技能、態度・志向性】						
授業計画	第1回 家庭科研究の振り返りと自己の課題 第2回 児童の生活実態と家庭科の指導 第3回 児童期の発達課題と家庭科の指導 第4回 年間指導計画と家庭科の指導 第5回 PDCAサイクルと家庭科の指導 第6回 ICT機器を活用した題材開発 第7回 対話的・主体的で深い学びと題材開発 第8回 学習指導案の作成と評価計画の作成 第9回 調理実習の指導計画の作成 第10回 調理実習（炊飯、みそ汁） 第11回 被服実習の指導計画の作成 第12回 被服実習（手縫いの小物づくり） 第13回 模擬授業実践と評価（家族、消費生活・環境領域） 第14回 模擬授業実践と評価（衣食住領域） 第15回 初等家庭科指導法の総括と終講課題（解説・質疑応答まで）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業について、理解が不足している点を復習すること（2時間）。次時の授業に向けて、自分の身近な生活環境を振り返り、関連する事項を整理するなど、主体的な学習に臨むための準備を行うこと（2時間）。						
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、視聴覚教材の学習や実際の家庭科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。						
評価基準と評価方法	・平常点（授業時の小レポートなど）50% →到達目標(1)～(4)に対応 ・学習指導案の作成30% →到達目標(3)に対応 ・模擬授業実践20% →到達目標(3)および(4)に対応 履修カルテの評価は「意欲」「関心」「適性」の3観点とする。						
履修上の注意	・出席及び授業への参加態度、姿勢を重視する。 ・出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行わない。 ・欠席する場合は、担当教員に連絡すること。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（家庭編）』（2018年）						
参考書	中間美砂子編著『小学校家庭科の指導』建帛社 2015年						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育経営論						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバー	K02100
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	教育法規や教育行政について学び、子どもたちが、共に学び、共に成長する学級・学校の在り方を明らかにする						
授業の概要	まず、学校教育の歴史を振り返り、1990年代以降の変化する社会状況の中で、現代の学校園教育は如何にあるべきか、教育基本法に立ち返り、学校教育の目的を再考し、教育行政や教育制度が現在の教育法規の基でどのようにになっているのかも学習する。その上で、学校教育が担う教育機能は、子どもたちに、知識・技能の習得をさせることだけでなく、心理社会的な発達を援助する側面を重視した学校経営論を構築していく。						
到達目標	現在の小学校や幼稚園・保育園の実態を把握して、子どもを中心に据えた学級・学校園経営を考える						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：学校教育の目的 第3回：教育法規 第4回：幼稚園教育要領と保育所保育指針 第5回：教育課程 第6回：子ども理解 第7回：保護者対応 第8回：教育行政と学校 第9回：教職員の組織 第10回：学校経営と心の教育 第11回：学習指導と生徒指導 第12回：育てる教育相談 第13回：海外の教育と比べて 第14回：地域の中の学校 第15回：今学校に求められるもの 定期試験 1990年代以降の子どもたち 教育基本法から探る公教育のねらいと学校に期待されるもの 学校教育法・学校教育法施行規則 子どもの指導の体系として カリキュラムの必要性和カリキュラムにないもの 子どもは自ら伸びようとする力を持っている 保護者は味方にも敵にもなる 教育行政と学校の関係について学ぶ…ゲストスピーカー招聘予定 リーダーシップとフォロアーシップ 鍵となるルールとリレーションをつくる 学習指導計画の大切さと生徒指導のプログラム化 集団の中で個を育てる 諸外国の幼児教育、初等教育との違いについて調べる 防災教育を核とした、地域へ発信する学校 学校教育の変わらぬ意義「人は 人によって 人になる」						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	幼稚園や保育所に出かけ、子どもとふれあい、子どもや幼稚園・保育所の実態を把握しておく						
授業方法	講義・演習						
評価基準と評価方法	平常点（授業態度・レポート） 40% 演習点（興味関心度・表現力） 20% テスト点（子どもを中心に据えた経営論が、立てられているか） 40% 意欲（授業に関心を持ち、懸命に参加する） 知識（教育用語を十分理解している） 適性（教育に関する発言が的確にできる）						
履修上の注意	教職に対する理想と現実のギャップを縮める心構えで受講する 自分が目指している校種以外にも、興味・関心を持つ						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習Ⅰ						
担当教員	井上 知子					科目ナンバー	K73630
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う。						
授業の概要	幼稚園教育実習で直接幼児とかかわり、実習園の教員の指導を通して、幼児理解を深めながら教育の実践を体験する。 実習期間中は教育内容等を記録し、実習園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園教育の現場で教育実習を体験することにより、幼稚園教諭としての仕事内容や役割、保育の楽しさを 知ることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】 これまで学んできた教科の知識や技能を自分の立てた計画に沿ってに実践の場で使ってみる ことができる。【汎用的技能】						
授業計画	授業のほとんどは、実習園で行われる。授業内容は下記の通りである。 ・教育実習園訪問（実習園へのあいさつ、実習園でのオリエンテーション、担当クラス・教材等の確認） ・教育実習（見学、観察、参加実習、実習記録の記入等） ・責任実習（部分実習、研究実習、半日実習、全日実習等） ・責任実習の反省会（自己評価、実習園長・指導教員からの指導助言等） ・事後指導（自己評価、実習記録の整理と提出）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：目標に迫るための模擬保育や教材研究などを行う。 必要なピアノや歌の練習などを一回30分程度、週3回は行う。 授業後学習：課題解決に向けて、ボランティア等で積極的に保育現場とかかわる。						
授業方法	実習園における教育実習						
評価基準と評価方法	実習園における勤務状況、実習の成績評価等 50% 教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する。						
履修上の注意	教育実習期間中は、遅刻・欠席をしないことはもとより、実習園の指導教員の指示に従い、社会人としての責任・熱意・誠意をもち、意欲的な態度で実習に臨むこと。						
教科書	「実習の手引き」神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 子ども発達学科 教育実習指導で配布したプリント						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習Ⅰ						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバー	K73630
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3～4	単位数	4.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う						
授業の概要	小学校教育実習で、直接、児童と触れ合うことを通して、子ども理解を深め、実習校園の教師の指導の下で、教育の実際を体験する。実習期間中は教育内容等を記録して、実習校園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園・小学校教育の現場で、教育実習を体験することにより、これまで学習してきた教科の知識・技能を、現実の小学校教諭としての仕事内容や役割など、実践を通して学び【汎用的技能】、児童理解をさらに深め、小学校教員としての教育観をもつ【態度・志向性】。						
授業計画	授業のほとんどは、実習校園で行われる。授業内容は、下記のとおりである。 ・教育実習校園訪問（実習校園へのあいさつ・実習校園でのオリエンテーション・担当クラス、教材等の確認） ・教育実習（見学、観察、参加実習、実習記録の記入等） ・研究授業（研究保育・代表授業等） ・研究事業の反省会（研究授業後の自己評価、実習校園長、指導教員等からの指導助言） ・事後指導（自己評価、実習記録の整理と提出）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	目標に迫るための模擬授業（保育）をする。 課題解決に向けて、学校園現場に積極的に関わる。						
授業方法	実習校園における実習						
評価基準と評価方法	実習校園における勤務状況、実習の成績評価 50% 教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する						
履修上の注意	教育実習期間中は、遅刻・欠席をしないことはもとより、実習校園の指導教員の指示に従い、責任・熱意・誠意を持って、意欲的な態度で実習に臨むこと。						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習Ⅱ						
担当教員	井上 知子					科目ナンバー	K74640
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う。						
授業の概要	幼稚園教育実習で直接幼児とかかわり、実習園の教員の指導を通して、幼児理解を深めながら教育の実験を体験する。 実習期間中は教育内容等を記録し、実習園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園教育の現場で教育実習を体験することにより、幼稚園教諭としての仕事内容や役割、保育の楽しさを知ることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】 これまで学んできた教科の知識や技能を自分の立てた計画に沿ってに実践の場で使ってみることができる。【汎用的技能】						
授業計画	授業のほとんどは、実習園で行われる。授業内容は下記の通りである。 ・教育実習園訪問（実習園へのあいさつ、実習園でのオリエンテーション、担当クラス・教材等の確認） ・教育実習（見学、観察、参加実習、実習記録の記入等） ・責任実習（部分実習、研究実習、半日実習、全日実習等） ・責任実習の反省会（自己評価、実習園長・指導教員からの指導助言等） ・事後指導（自己評価、実習記録の整理と提出）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：目標に迫るための模擬保育や教材研究などを行う。 必要なピアノや歌の練習などを一回30分程度、週3回は行う。 授業後学習：課題解決に向けて、ボランティア等で積極的に保育現場とかかわる。						
授業方法	実習園における教育実習						
評価基準と評価方法	実習園における勤務状況、実習の成績評価等 50% 教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する。						
履修上の注意	教育実習期間中は、遅刻・欠席をしないことはもとより、実習園の指導教員の指示に従い、社会人としての責任・熱意・誠意をもち、意欲的な態度で実習に臨むこと。						
教科書	「実習の手引き」神戸松蔭女子学院大学 人間科学部 子ども発達学科 教育実習指導で配布したプリント						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習Ⅱ						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバー	K74640
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	効果的な教育実習を行う						
授業の概要	小学校教育実習で、直接、児童と触れ合うことを通して、子ども理解を深め、実習校園の教師の指導の下で、教育の実際を体験する。実習期間中は教育内容等を記録して、実習校園の担当教員の指導を受ける。						
到達目標	幼稚園・小学校教育の現場で、教育実習を体験することにより、これまで学習してきた教科の知識・技能を、現実の小学校教諭としての仕事内容や役割など、実践を通して学び【汎用的技能】、児童理解をさらに深め、小学校教員としての教育観をもつ【態度・志向性】。						
授業計画	授業のほとんどは、実習校園で行われる。授業内容は、下記のとおりである。 ・教育実習校園訪問（実習校園へのあいさつ・実習校園でのオリエンテーション・担当クラス、教材等の確認） ・教育実習（見学、観察、参加実習、実習記録の記入等） ・研究授業（研究保育・代表授業等） ・研究事業の反省会（研究授業後の自己評価、実習校園長、指導教員等からの指導助言） ・事後指導（自己評価、実習記録の整理と提出）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	目標に迫るための模擬授業（保育）をする。 課題解決に向けて、学校園現場に積極的に関わる。						
授業方法	実習校園における実習						
評価基準と評価方法	実習校園における勤務状況、実習の成績評価 50% 教育実習の記録等の評価 50% を総合して評価する						
履修上の注意	教育実習期間中は、遅刻・欠席をしないことはもとより、実習校園の指導教員の指示に従い、責任・熱意・誠意を持って、意欲的な態度で実習に臨むこと。						
教科書							
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	井上 知子					科目ナンバー	K73620
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3～4	単位数	1.0
授業のテーマ	幼稚園現場の実態把握と実践を通した幼児理解を的確に行える教育実習を目指す						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまで学んできた専門的な理論や技能、教職科目・一般教育科目の理論や知識を教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 教育実習の意義と目的を認識するとともに、教育者としての自覚と責任感をもち、教育実習に対する意欲と心構えをもって実習に必要な保育技術や指導計画作成の方法を習得する。 また、模擬保育をしたり見たりすることで、心に余裕をもって実践にあたる準備をする。						
到達目標	模擬保育を経験して、活動や教材に対する理解を深める。【汎用的技能】 教員として、また社会人としての態度などを身に付け、安定して教育実習に臨めるようにする。【態度・志向性】 教育実習に対する興味・関心・意欲を高める。【態度・志向性】						
授業計画	(事前指導) 第1回 オリエンテーション : 教育実習の概要 幼稚園のデイリープログラム 第2回 教育実習の意義と心得 : 幼稚園教育の基礎・基本 実習生としての自覚と心得 第3回 教育実習の心構え : 教材研究と準備 保育指導案の書き方 第4回 保育指導(1) : 模擬保育とディスカッション 保育指導案の修正 第5回 保育指導(2) : 絵本の読み聞かせ (ゲストスピーカー招聘) 第6回 保育指導(3) : 模擬保育とディスカッション 実習記録の書き方 第7回 保育指導(4) : 模擬保育とディスカッション エピソード記録について 第8回 保育指導(5) : 模擬保育とディスカッション 礼状の書き方 第9回 保育指導(6) : 模擬保育とディスカッション 個別の対応と集団の指導 第10回 保育指導(7) : 模擬保育とディスカッション 幼稚園における環境整備 (事後指導) 第11回 実習の振り返り(1) : チェックリストに基づいての自己評価 第12回 実習の振り返り(2) : 学習内容の整理 教育観を確認する 第13回 実習の振り返り(3) : 今後の課題と課題解決に向けて 第14回 実習の振り返り(4) : 「ねらい」と「内容」 第15回 保育指導(8) : 模擬保育とディスカッション 遊びと学び						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	・ 模擬保育指導案の作成に当たっては、グループ内で実際にやってみて、修正を重ねる。また、教材研究や必要であれば、ピアノや歌の練習をする。(週に2時間程度) ・ ボランティア等、幼稚園現場とのかかわりを積極的にもつ。						
授業方法	講義 演習						
評価基準と評価方法	授業態度(興味・関心 等) 50% 提出物(実習に向けて、模擬保育指導案、実習報告 等) 50%を総合して評価する。						
履修上の注意	自分なりの目標をもち、積極的な態度で授業に臨むこと。 第1回から第10回までが事前指導、第11回から第15回までが実習終了後の事後指導です。 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。						
教科書	「教育実習の手引き」(神戸松蔭女子学院大学作成版)						
参考書	幼稚園教育要領解説 文部科学省						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバー	K73620
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3～4	単位数	1.0
授業のテーマ	大学で学んだ学びを実践に生かし、学校現場の実態把握を的確にするための教育実習を目指す。						
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生がこれまでに学んできた専門的な理論や技術、教職科目・一般教育科目の理論や知識を、教育現場で実践に結び付ける貴重な体験の場である。 まず教育実習の意義と目的を認識し、教育者としての使命感と自覚を強く持ち、教育実習に対する心構えをしっかりと持つ。また、学校園・子どもたちの実態を把握し、理想と現実をより近いものにしていく。						
到達目標	模擬実習を経験して、子供・教職員へのあいさつの仕方や子供が主体となる授業づくりなどを学び【汎用的技能】、教育実習に対する興味・関心、意欲を高める。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：オリエンテーション：教育実習の概要 第2回：教育実習の目的：教育実習の 第3回：子どもたち・学校園の現状：最近の学校園、子どもたちの現状把握…ゲストスピーカー招聘予定 第4回：教育実習に向けての心構え：記録の書き方 第5回：学校園の生活：1日の生活時程の把握 第6回：学習指導①：授業の基本・教材研究と指導計画の作成 第7回：学習指導②：学習指導案の作成・模擬授業 第8回：危機管理：生徒指導・保護者対応 第9回：模擬実習①：模擬授業・生徒指導とロールプレイ 第10回：模擬実習②：模擬授業・学習展開の実際 第11回：教育観①：実習先での感想を語り合い、自己の教育観を再考する 第12回：教育観②：学校現場の課題を確認し、教師としての在りようについて討議する 第13回：現場体験を踏まえた模擬授業：学校現場での授業体験から、模擬授業での課題を確認する 第14回：震災から学ぶ防災教育：現場での体験を通じた防災教育 第15回：まとめ：子どもの前に立った経験から						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前事前学習：教育ボランティア・スクールサポーターなど、学校園現場とのかかわりを積極的にもつ（学習時間1時間） 実習後事後学習：実習を踏まえた児童との関わり方について、教育ボランティア・スクールサポーターに生かしその体験を授業でもグループワークで語り合ったことを基に整理し、確認する。（学習時間1時間）						
授業方法	講義・演習 授業内での討議への参加度、リアクションペーパーによる授業内容の把握等 50% 期末試験：授業で扱った理論の理解、具体的な対応の仕方の解釈 50%						
評価基準と評価方法	授業態度（グループワークでの発表態度…興味・関心度等） 50% 提出物（実習計画・実習反省・指導案等 事後学習でのレポート等） 50%						
履修上の注意	目標をしっかりと持ち、積極的な態度で授業に臨むこと 模擬授業、グループワークに積極的に参加すること						
教科書	教育実習の手引き（神戸松蔭女子学院大学作成）						
参考書	小学校学習指導要領解説総則編（平成29年版）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育相談						
担当教員	根津 隆男					科目ナンバー	K03130
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	学校教育相談における教師の教育相談の在り方（治す教育相談と育てる教育相談）						
授業の概要	学校教育現場においては、児童や生徒一人一人に対して、治療的教育相談だけでなく、学級経営上・生徒指導上でも対応できる予防的・開発的教育相談の必要性が現在高まっている。本講義では、教師として身につけたい教育相談の知識と手法についてその理論的枠組みとともに、具体的な事例について、グループワークやロールプレイといった学習方法を通して児童および生徒の支援の実践について理解を深めていくことを目的としている。						
到達目標	・個々の児童生徒の治療的な教育相談だけでなく、集団を対象とした予防的開発的教育相談について理解し説明できる。（知識・理解） ・学校における教育相談の技能として傾聴技法と良好な学級集団づくりについてカウンセリング心理学の技法をいかに技能を使用できる。（汎用的技能） ・教師としてのカウンセリングマインドの姿勢を身につけることができる。（態度・志向性）						
授業計画	第1回：オリエンテーション 学校における教育相談の意義と課題 第2回：現代の子どもの問題 教師に必要な学校教育相談（「生徒指導提要」から） 第3回：ピアヘルピングと青年期の課題 第4回：教育相談の理論と方法（1）来談者中心療法、 第5回：教育相談の理論と方法（2）認知行動療法、精神分析療法 第6回：教育相談の理論と方法（3）折衷主義 コーヒーカップ方式、ブリーフセラピー 第7回：教育相談の個別支援（1）不登校といじめ 第8回：教育相談の個別支援 校種の違いによる教育相談の目標 発達段階の違いに応じた技法の理解と対応 第9回：仲間同士の教育相談…ピアヘルピングとカウンセリングの違い 第10回：カウンセリングスキル 言語的技法と非言語的技法 第11回：教育相談体制の整備 第12回：医療・福祉・心理・心理との連携及びリファールについて 第13回：治療的教育相談と予防的開発的教育相談 第14回：予防的開発的教育相談と学校を挙げた取組 第15回：まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で行う教科書の当該箇所について、「生徒指導提要第5章教育相談」や参考書を予習し、授業に備える（学習時間2時間） 授業後学習：授業で配布したプリントを基に、内容の要点箇所を確認する（学習時間2時間）						
授業方法	講義に加えて、事例研究やソーシャルスキルトレーニングのロールプレイなど予防的開発的カウンセリングに関するグループワークを体験し、シェアリング等の話し合い活動を通して、教師としての開発的カウンセリングのスキルを獲得していく。						
評価基準と評価方法	レポート50%、テスト50%						
履修上の注意	教科書は2回目までに用意しておくこと 積極的にペアワーク、グループワークに参加する姿勢と静かに傾聴する姿勢のメリハリある態度をつけること						
教科書	文部科学省（2011）『生徒指導提要』教育図書 978-4877302740（TSは2年前期で購入済）						
参考書	日本教育カウンセラー協会編（2001）『ピアヘルパーハンドブック』図書文化社 978-4810013436 日本教育カウンセラー協会編（2002）『ピアヘルパーワークブック』図書文化社 978-4810023862 適宜配付する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育の方法と技術						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバー	K01050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	教育の方法と指導技術を学び、ICTも用いながら授業として実践する。						
授業の概要	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育・保育の方法、技術、情報機器および教材の活用、学習評価の理論に関する基礎的な知識・技能を身につける科目である。資質・能力を育成するために主体的・対話的で深い学びの実現等をいかに授業や保育において実現するか、その指導技術を理解し、身につける。具体的には、学級、子ども、教員、教室、教材など子どもの学びを構成する基礎的な要件を理解するとともに、幼児教育・初等教育・中等教育における発達に応じた基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成する。これをマイクロティーチングとして実践することを通して、話法や板書はもちろん、ICTの効果的な利用、評価の役割について体験的に学ぶ。						
到達目標	以下3点を目標とする。これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する【知識・理解】。そのために、教育の目的に適した指導技術を理解し身に付ける【汎用的技能】。また、情報機器（ICT）を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける【汎用的技能】。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業とは何か 第2回 学習指導案・保育指導案の検討：授業保育の基本要素（教室・板書・指導言）を学ぶ。 第3回 教材教具を工夫した授業実践・保育：授業ビデオの視聴 第4回 アクティブ・ラーニングとは何か：ディベートの実践を見る 第5回 アクティブ・ラーニングの視点と学び：多様な教授・学習形態と学び 第6回 授業・保育づくりと実践に情報機器を活用する 第7回 ICTを活用する学習・保育：佐賀県高山市の反転学習とICTの活用 第8回 評価とは何か：基礎的な理論と育みたい資質・能力を見通した指導 第9回 学習指導案・保育指導案の作成①：教材観・子ども観・指導観・評価基準 第10回 学習指導案を作成する②：単元計画・保育計画を立てる 第11回 学習指導案を作成する③：保育・学習展開と評価の視点 第12回 授業・保育としての実践①：マイクロティーチング（クラスの半数） 第13回 授業・保育としての実践②：マイクロティーチング（クラスの残り半数） 第14回 授業を振り返り、授業評価をする：PDCAサイクルとは何か？ 第15回 講義全体の振り返りと授業改善に取り組む						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に前の授業で配布した資料の該当箇所を読み、理解できなかったことをメモしておくこと。授業で配布した資料や自分の記録を読み返し、理解を深めること（2時間）。 学習指導案作成による模擬授業の計画・実施を通じて、体験的に学習を深めること。学習指導案はPCで作成し、保育や教育の実践では、授業外での学習や準備が必要となる（2時間）。						
授業方法	講義や視聴覚教材を通じて、授業の方法について理解を深めた後、履修者数に応じて、グループで模擬授業を行うことを主体的な学びを促す。						
評価基準と評価方法	平常点10%（授業時の小レポートなど）、指導案の作成20%、模擬授業の実施40%、授業改善レポート30%。						
履修上の注意	1. 積極的に授業に参加し、優れた教師になることをめざすこと 2. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。 3. 2／3以上の出席を単位認定の基準とする。						
教科書	授業中に適宜指示する。						
参考書	田中耕治『よくわかる授業』ミネルヴァ書房、2017年。 田中耕治他『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、2012年 文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職基本演習						
担当教員	秋山 麗子					科目ナンバー	K74750
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職についての専門的な知識と実践的な指導力の育成						
授業の概要	本授業では、学生がこれまでの教職課程に関する履修や教職課程外での様々な活動を通じて、教員としての資質や能力が有機的に統合されながら形成されてきているかを、自己点検し確認する。また、教員になるために自分に不足している知識や技能・技術、能力や態度等を補い、教員として必要な資質と実践的指導力の向上を図るようにする。						
到達目標	学習指導について、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等の実施により、教職における専門的な知識や実践的な授業力を高める。（知識・理解）（汎用的技能）また、学級経営や生徒指導について、事例研究、グループによる演習、ロールプレイなどにより教師としての資質・能力や実践的な指導力を養う。（汎用的技能）（態度・志向性）						
授業計画	第1回 オリエンテーション：本授業のねらいと授業の概要 第2回 教員としての自分の点検・確認、自己の課題の把握 第3回 授業における基本的な展開や教師の役割（ユニバーサルデザインの授業の展開） 第4回 グループに分かれて学習指導案の作成 第5回 模擬授業の実施とその授業評価・授業修正（1） 第6回 模擬授業の実施とその授業評価・授業修正（2） 第7回 小学校教員の仕事内容（校務分掌と学校経営） 第8回 小学校の学級担任の仕事内容（1）：学級経営と学級づくり 第9回 小学校の学級担任の仕事内容（2）：学級事務、成績評価、懇談会等 第10回 小学校の学級担任の仕事内容（3）：集団指導と個別指導 第11回 生徒指導上の課題とその対応についての事例検討（1）：いじめ・不登校 第12回 生徒指導上の課題とその対応についての事例検討（2）：怠学、暴力行為、虞犯行為 第13回 児童理解の今日的課題と保護者との連携の在り方 第14回 ロールプレイによる保護者対応の在り方の実践と検討 第15回 まとめ：教員としての資質・能力についての自己評価および今後の課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前学習：各回の授業で行う内容について、事前に指定する内容やキーワードについて、指定した図書や参考資料などで下調べをしたり、発表資料を作成したりする（学習時間2時間）。 ・授業後学習：授業で学んだことを復習し、次の授業や実習、就職した際に活かせるように、要点をまとめて報告文を作成し、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間2時間）						
授業方法	参加型の授業を中心に、グループで指導案を作成したり模擬授業を実施したり、事例の検索をして発表したりする。 また、模擬授業や事例発表に対する相互評価を行ったり、全体やグループでディスカッションしたりする。						
評価基準と評価方法	・平常点60%（授業やグループ発表での内容や態度、小テスト、授業のワークシートや意見・感想などによる） ・学期末レポート40%（教員として必要な資質や能力に関すること）						
履修上の注意	1. 資料の配布は、各回の出席者のみ配布する。（欠席の時は、翌週授業時に限り配布） 2. 20分以上の遅刻の場合は欠席とする。						
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）						
参考書	『小四教育技術 8月号増刊「対話」にあふれ「深い学び」を生み出す4年の学級経営』、小学館、2017.7 『小六教育技術 8月号増刊「対話」にあふれ「深い学び」を生み出す6年の学級経営』、小学館、2017.7						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	松岡 靖・秋山 麗子					科目ナンバー	K74650
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育・保育実習記録などを用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、(1)教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、(2)職務上の社会性や対人関係能力、(3)行き届いた子ども理解や学級経営、(4)教科教育・保育内容の十分な指導力とする。						
授業の概要	教職・保育士養成課程の完成教育として、教職科目と小学校教科と幼稚園領域の担当教員がオムニバスで担当する。大学での講義・討論、模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを行う。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。						
到達目標	1. 教職・保育士養成課程の履修全体を、学生が実習経験を踏まえつつ総括できる【態度・志向性】。 2. 教育者・保育者に必要な資質・能力に照らし、学生が自らの課題を省察できる【汎用的技能】。 3. 実践的指導力を高めることで、学生が教育者・保育者として順調に出発できる【態度・志向性】。						
授業計画	第1回 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力（担当：松岡・秋山） 第2回 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？（担当：松岡） 第3回 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？（担当：松岡） 第4回 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化（担当：秋山） 第5回 フィールドワークの事前指導（担当：秋山） 第6回 フィールドワーク(1)：教育・保育の現場の参観（担当：秋山） 第7回 フィールドワーク(2)：教育・保育の現場の参観（担当：秋山） 補講1 フィールドワークの事後指導（担当：松岡） 補講2 教育実習による欠席分の補講（担当：松岡） 第8回 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力（担当：秋山） 第9回 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論（担当：秋山） 第10回 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで（担当：秋山） 第11回 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画（担当：秋山） 第12回 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備（担当：秋山） 第13回 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討（担当：秋山） 第14回 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル（担当：秋山） 第15回 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表（担当：秋山）。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業の前に教職課程履修カルテを完成させておく（学習時間10時間）。 2. 自らの保育・教育実習記録を読み直して考察する（学習時間20時間）。 3. 事例研究を踏まえて指導案を準備し練習しておく（学習時間30時間）。						
授業方法	1. 履修カルテ記入は反転学習で完成させる。 2. フィールドワークで現場の考察を深める。 3. 模擬授業・保育はグループワークで行う。						
評価基準と評価方法	1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。 2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。						
履修上の注意	1. 最初の授業に履修カルテを記入し持参すること。 2. フィールドワークの日時と場所に注意すること。 3. 12月上旬土曜に行う補講2コマに注意すること。 4. 2/3以上の出席に満たないと受験資格を失うこと。						
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを活用する。						
参考書	なし。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	松岡靖・井上知子・林 悠子					科目ナンバー	K74650
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育・保育実習記録などを用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、(1)教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、(2)職務上の社会性や対人関係能力、(3)行き届いた子ども理解や学級経営、(4)教科教育・保育内容の十分な指導力とする。						
授業の概要	教職・保育士養成課程の完成教育として、教職科目と小学校教科と幼稚園領域の担当教員がオムニバスで担当する。大学での講義・討論、模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを行う。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。						
到達目標	1. 教職・保育士養成課程の履修全体を、学生が実習経験を踏まえつつ総括できる【態度・志向性】。 2. 教育者・保育者に必要な資質・能力に照らし、学生が自らの課題を省察できる【汎用的技能】。 3. 実践的指導力を高めることで、学生が教育者・保育者として順調に出発できる【態度・志向性】。						
授業計画	第1回 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力（担当：松岡・井上・林） 第2回 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？（担当：松岡） 第3回 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？（担当：松岡） 第4回 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化（担当：林） 第5回 フィールドワークの事前指導（担当：林） 第6回 フィールドワーク(1)：教育・保育の現場の参観（担当：林） 第7回 フィールドワーク(2)：教育・保育の現場の参観（担当：林） 補講1 フィールドワークの事後指導（担当：松岡） 補講2 教育実習による欠席分の補講（担当：松岡） 第8回 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力（担当：林） 第9回 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論（担当：井上） 第10回 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで（担当：井上） 第11回 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画（担当：井上） 第12回 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備（担当：井上） 第13回 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討（担当：林） 第14回 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル（担当：林） 第15回 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表（担当：林）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業の前に教職課程履修カルテを完成させておく（学習時間10時間）。 2. 自らの保育・教育実習記録を読み直して考察する（学習時間20時間）。 3. 事例研究を踏まえて指導案を準備し練習しておく（学習時間30時間）。						
授業方法	1. 履修カルテ記入は反転学習で完成させる。 2. フィールドワークで現場の考察を深める。 3. 模擬授業・保育はグループワークで行う。						
評価基準と評価方法	1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。 2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。						
履修上の注意	1. 最初の授業に履修カルテを記入し持参すること。 2. フィールドワークの日時と場所に注意すること。 3. 12月上旬土曜に行う補講2コマに注意すること。 4. 2/3以上の出席に満たないと受験資格を失うこと。						
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを活用する。						
参考書	なし。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	教職実践演習（幼・小）							
担当教員	松岡靖・井上知子・林 悠子					科目ナンバー	K74650	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程履修カルテと教育・保育実習記録などを用いて実践的な事例研究を行う。事例研究のテーマは、(1)教職・保育者に必要な使命感・責任感・愛情、(2)職務上の社会性や対人関係能力、(3)行き届いた子ども理解や学級経営、(4)教科教育・保育内容の十分な指導力とする。							
授業の概要	教職・保育士養成課程の完成教育として、教職科目と小学校教科と幼稚園領域の担当教員がオムニバスで担当する。大学での講義・討論、模擬授業・保育による事例研究とともに、教育・保育の現場へのフィールドワークを行う。この授業を通じて学生が現場での実践的な対応力を伸ばす準備とする。							
到達目標	1. 教職・保育士養成課程の履修全体を、学生が実習経験を踏まえつつ総括できる【態度・志向性】。 2. 教育者・保育者に必要な資質・能力に照らし、学生が自らの課題を省察できる【汎用的技能】。 3. 実践的指導力を高めることで、学生が教育者・保育者として順調に出発できる【態度・志向性】。							
授業計画	第1回 教職課程履修カルテ：教育者としての資質・能力（担当：松岡・井上・林） 第2回 教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題は？（担当：松岡） 第3回 教育のポートフォリオ：教職課程における役割は？（担当：松岡） 第4回 実践事例研究(1)：実践でのPDCAサイクルの具体化（担当：井上） 第5回 フィールドワークの事前指導（担当：井上） 第6回 フィールドワーク(1)：教育・保育の現場の参観（担当：井上） 第7回 フィールドワーク(2)：教育・保育の現場の参観（担当：井上） 補講1 フィールドワークの事後指導（担当：松岡） 補講2 教育実習による欠席分の補講（担当：松岡） 第8回 実践事例研究(2)：教育者として必要な資質・能力（担当：井上） 第9回 実践事例研究(3)：教育・保育現場における組織論（担当：林） 第10回 実践事例研究(4)：子ども理解から学級経営まで（担当：林） 第11回 模擬授業・保育(1)：指導計画と授業・保育の計画（担当：林） 第12回 模擬授業・保育(2)：略案作成と授業・保育の準備（担当：林） 第13回 模擬授業・保育(3)：模擬授業・保育の実施と検討（担当：井上） 第14回 模擬授業・保育(4)：模擬授業・保育のPDCAサイクル（担当：井上） 第15回 履修カルテのまとめ：教育者としての決意の発表（担当：井上）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業の前に教職課程履修カルテを完成させておく（学習時間10時間）。 2. 自らの保育・教育実習記録を読み直して考察する（学習時間20時間）。 3. 事例研究を踏まえて指導案を準備し練習しておく（学習時間30時間）。							
授業方法	1. 履修カルテ記入は反転学習で完成させる。 2. フィールドワークで現場の考察を深める。 3. 模擬授業・保育はグループワークで行う。							
評価基準と評価方法	1. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。 2. 授業での提出課題50%、模擬授業・保育での発表内容50%。							
履修上の注意	1. 最初の授業に履修カルテを記入し持参すること。 2. フィールドワークの日時と場所に注意すること。 3. 12月上旬土曜に行う補講2コマに注意すること。 4. 2/3以上の出席に満たないと受験資格を失うこと。							
教科書	とくに指定せず履修カルテや実習記録などを活用する。							
参考書	なし。							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの保健ⅠA／小児保健A						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバー	K7324A
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	発育・発達しつつある子どもの育ちや家庭への支援を小児保健の視点から理解する。						
授業の概要	子どもの心身の健康を守り、より積極的な健康を目指すことの重要性を認識し、小児保健・母子保健の意義と母子保健行政の役割について学ぶ。また、胎児期、新生児期、乳児期、幼児期を経て学童・思春期に至る各時期の子どもの身体発育や生理機能、運動機能並びに精神機能の発達の特長を理解する。さらに、特別な配慮の必要な子ども（障がいのある子ども、病気の子ども、施設等で生活する子ども、子どもの虐待の防止）への支援についても学修する。						
到達目標	1. 子どもを一人の尊厳ある人間として理解し、常に発育・発達しつつあり、身体的にも精神的にも未熟な存在であるという特徴について具体的事象をもって説明できる（知識・理解／汎用性技能）。 2. 我が国の母子保健政策および子どもをとりまく環境についての現状と課題について説明できる（知識・理解／汎用性技能）。 3. 胎児期、新生児期から学童に至るまでの各時期の子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達の過程と特徴を理解し、説明できる（知識・理解／汎用性技能）。 4. 特別な配慮・支援の必要な子どもの支援について保育者の視点から提案できる（知識・理解／態度・志向性）。						
授業計画	第1回：子どもの健康と保健①「健康の概念と子どもをめぐる環境の変化」 第2回：子どもの健康と保健②「母子保健および小児保健統計」 第3回：子どもの発育・発達のみちすじ①「胎児期の発育と発達」 第4回：子どもの発育・発達のみちすじ②「乳児期前半の発育と発達」 第5回：子どもの発育・発達のみちすじ③「乳児期後半の発育と発達」 第6回：子どもの発育・発達のみちすじ④「幼児期（1歳半～2歳後半）の発育と発達」 第7回：子どもの発育・発達のみちすじ⑤「幼児期（3歳前半～4歳後半）の発育と発達」 第8回：子どもの発育・発達のみちすじ⑥「幼児期（5歳前半～6歳後半）の発育と発達」 第9回：子どもの発育・発達のみちすじ⑦「学童期の発達と発達」（レポートA作成） 第10回：特別な配慮の必要な子どもたち①「障害のある子どもの発達と支援」 第11回：特別な配慮の必要な子どもたち②「病気の子どもの発達と支援」 第12回：特別な配慮の必要な子どもたち③「施設等で育つ子どもたち」 第13回：保育、教育的支援と発達の共感（レポートB作成） 第14回：世界の子どもの成長・発達とそれを阻害する状況（グループ発表） 第15回：定期テストとまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所、事前に配布する資料、事前に指定するキーワードについて、指定された参考図書等で下調べをする、次回で取り上げる内容についての疑問、質問等を、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間2時間） 授業後学習：授業内で指示したテーマ・課題について報告文を作成し、松蔭manabaコースコンテンツに投稿する（学習時間2時間）						
授業方法	講義：毎回、テーマについてグループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。第15回では、全講義を通してグループごとに関心のあるテーマを選び、プレゼンテーションを行う。 授業の事後学習には、松蔭manabaを利用してレポートを実施する。						
評価基準と評価方法	学生に対する評価 ①定期試験50％ ②レポート20％ ③授業各回のリアクションペーパーへの取り組み状況20％ ④グループワーク、発表でのパフォーマンス10％ ①定期試験：授業で扱った健康の概念や母子保健、小児保健統計に関する知識、子どもの成長・発達に関する理解度について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。 ②レポート：子どもの成長・発達過程についての理解度、「発達」に対する自らの興味・関心の明確性・具体性、特別な配慮の必要な子どもへの共感的理解と支援方法に対する興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（3）（4）に関する到達度の確認。 ③授業各回のリアクションペーパーへの取り組み状況：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。 ④グループワーク、プレゼンテーションでのパフォーマンス：各テーマに関する自らの興味・関心の明確性・具体性、グループワークやプレゼンテーションにおける積極性、協働性について評価する。到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 優秀レポートやリアクションペーパーのコメント・質問等について翌週授業で紹介・解説する。期末試験結果の講評を松蔭manabaで告知する。						

履修上の注意	1. 積極的に授業に参加する学生の受講を期待する。 2. 2/3 以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。 3. 遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない。
教科書	『発達の手』上、初版、白石正久、かもがわ出版、978-4876991440
参考書	・『発達の手』下、初版、白石正久、かもがわ出版、978-4876992645 ・『子どもの発達と診断』シリーズ、田中昌人・田中杉江、大月書店 ・『教育と保育のための発達診断』、初版、白石正久・白石恵理子、全障研出版部、978-4881347744 ・『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅰ』、初版、鈴木美枝子編著、978-4794480712

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの保健Ⅱ／小児保健演習						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバー	K74280
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者として子どもの心とからだの健康づくりを担うという自覚を持ち、子どもの心身の健康と安全を保持・増進するための保健的知識や技術・方法を実践的に身につける。						
授業の概要	これまで学んできた子どもの発達や基本的な保健知識を保持・増進していくための実践力を身につける。子どもの発達段階と心身の健康状態に応じた支援の仕方を理解するため、講義と演習を取り入れて授業を展開する。演習では、現場の事例や実践などを取り入れながら学びを深めていく。さらに、変化しつつある現代社会における子どもを取り巻く家庭、地域、保育教育施設との連携推進を率先できる力を身につけられるよう図る。						
到達目標	1. 子どもの発育・発達の観察と評価、健康観察と健康管理が適切にできる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能） 2. 子どもの養護、体調不良への対応、応急手当が適切にできる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能） 3. 屋内外における望ましい保育環境と安全対策について説明できる。（知識・理解／汎用的技能） 4. 子どもの心とからだの健康づくりを、保育者として組織することができる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能）						
授業計画	第1回：導入および子どもの発育・発達の観察と評価① 「演習の意義と心構え、乳児・幼児の計測法とその評価」 第2回：子どもの発育・発達の観察と評価②「乳児・幼児の計測の実践-演習」 第3回：子どもの発育・発達の観察と評価③「乳児・幼児の計測の評価」 第4回：子どもの健康観察と健康管理①「日常の保育における健康観察」 第5回：子どもの健康観察と健康管理②「健康診断と健康管理」 第6回：子どもの養護と教育①「子どもの養護-だっこ、おんぶ、おむつ、衣類」 第7回：子どもの養護と教育②「子どもの養護-沐浴、シャワー浴、清拭」 第8回：子どもの養護と教育③ 「子どもの養護-調乳と授乳、離乳食の与え方、清潔と感染予防、日常生活のケア」 第9回：子どもの養護と教育④「子どもの養護-演習」（レポートA） 第10回：子どもの体調不良への対応①「子どもの主な症状への対応」 第11回：子どもの体調不良への対応②「感染症の予防と対策、子どもと薬」 第12回：子どもの体調不良への対応③「個別の配慮を必要とする子どもへの支援」 第13回：保育における応急手当①「応急手当-講義と演習」 第14回：保育における応急手当②「一次救命-講義と演習」（レポートB） 第15回：望ましい保育環境と安全対策「屋内外の保育環境と災害への対策、危機管理」						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：これまでの学修を終えた「子どもの保健ⅠA」「子どもの保健ⅠB」の内容を復習しておくこと。演習の前には事前に行った講義の内容該当箇所を必ず復習し、スムーズに演習に挑めるように準備しておくこと（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツに掲載する各回授業のキーワードとその解説を確認し、確認テストで理解度を確かめる。また、次の演習に備えて必ず復習・確認しておくこと。（学習時間2時間）						
授業方法	講義：毎回、テーマについてグループまたはペアによるディスカッションやロールプレイを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。 演習：講義で学修した実技項目についてグループまたはペアによる演習を行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。 授業の事後学習には、松蔭manabaを利用して確認テストを実施する。						
評価基準と評価方法	①演習、実技講習でのパフォーマンス40%、到達目標（1）（2）に関する到達度の確認。 ②各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント、質問）の内容、記述の的確さ等を評価30%、到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認 ③レポート20%、到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認 ④グループワークでのパフォーマンス10%、到達目標（3）（4）に関する到達度の確認 上記を総合的に評価するが、積極的に授業に参加する等の態度面を重視する。 課題に対するフィードバックの方法 優秀レポート、リアクションペーパーについて翌週授業で紹介・解説する。 レポート、リアクションペーパーの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。またそれらに記載された質問については、翌週の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	・演習中心の講義であるので、積極的に演習に参加する学生の受講を期待する。 ・2/3以上の出席に満たない者は、単位認定を行わない。 ・遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない（20分以上の遅刻は欠席とみなす）。 ・演習を実施するのにふさわしい身だしなみや態度に注意すること。 ・欠席等でその項目の演習が出来ない場合は、別途日程を設定し、演習を行う。						
教科書	『これならわかる 子どもの保健演習ノート 改定第3版』榊原洋一監修 小林美由紀、診断と治療社、978-4-7878-2289-5						

参考書	・『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』，初版，鈴木美枝子編著，978-4794480576 ・『平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園・保育要領 原本』内閣府，文部科学省，チャイルド本社，978-4805402580 ・『保育者のための わかりやすい 子どもの保健』，初版，飯島一誠監修，稲垣由子，本田順子，八木麻理子，978-4-88924-264-5 ・『よくある子どもの病気・ケガまずの対応マニュアル：よくある症状への具体的な寄り添い方から保護者への伝え方まで（ハッピー保育アドバイス）』，新谷まさこ，初版，ひかりのくに，978-4564608520 ・『0～5歳児ケガと病気の予防・救急まるわかり安心BOOK』，金澤治，初版，ナツメ社，978-4816351884
-----	--

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの保健Ⅱ／小児保健演習						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバー	K74280
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	保育者として子どもの心とからだの健康づくりを担うという自覚を持ち、子どもの心身の健康と安全を保持・増進するための保健的知識や技術・方法を実践的に身につける。						
授業の概要	これまで学んできた子どもの発達や基本的な保健知識を保持・増進していくための実践力を身につける。子どもの発達段階と心身の健康状態に応じた支援の仕方を理解するため、講義と演習を取り入れて授業を展開する。演習では、現場の事例や実践などを取り入れながら学びを深めていく。さらに、変化しつつある現代社会における子どもを取り巻く家庭、地域、保育教育施設との連携推進を率先できる力を身につけられるよう図る。						
到達目標	1. 子どもの発育・発達の観察と評価、健康観察と健康管理が適切にできる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能） 2. 子どもの養護、体調不良への対応、応急手当が適切にできる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能） 3. 屋内外における望ましい保育環境と安全対策について説明できる。（知識・理解／汎用的技能） 4. 子どもの心とからだの健康づくりを、保育者として組織することができる。（知識・理解／態度・志向性／汎用的技能）						
授業計画	第1回：導入および子どもの発育・発達の観察と評価① 「演習の意義と心構え、乳児・幼児の計測法とその評価」 第2回：子どもの発育・発達の観察と評価②「乳児・幼児の計測の実践-演習」 第3回：子どもの発育・発達の観察と評価③「乳児・幼児の計測の評価」 第4回：子どもの健康観察と健康管理①「日常の保育における健康観察」 第5回：子どもの健康観察と健康管理②「健康診断と健康管理」 第6回：子どもの養護と教育①「子どもの養護-だっこ、おんぶ、おむつ、衣類」 第7回：子どもの養護と教育②「子どもの養護-沐浴、シャワー浴、清拭」 第8回：子どもの養護と教育③ 「子どもの養護-調乳と授乳、離乳食の与え方、清潔と感染予防、日常生活のケア」 第9回：子どもの養護と教育④「子どもの養護-演習」（レポートA） 第10回：子どもの体調不良への対応①「子どもの主な症状への対応」 第11回：子どもの体調不良への対応②「感染症の予防と対策、子どもと薬」 第12回：子どもの体調不良への対応③「個別の配慮を必要とする子どもへの支援」 第13回：保育における応急手当①「応急手当-講義と演習」 第14回：保育における応急手当②「一次救命-講義と演習」（レポートB） 第15回：望ましい保育環境と安全対策「屋内外の保育環境と災害への対策、危機管理」						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：これまでの学修を終えた「子どもの保健ⅠA」「子どもの保健ⅠB」の内容を復習しておくこと。演習の前には事前に行った講義の内容該当箇所を必ず復習し、スムーズに演習に挑めるように準備しておくこと（学習時間2時間） 授業後学習：松蔭manabaコースコンテンツに掲載する各回授業のキーワードとその解説を確認し、確認テストで理解度を確かめる。また、次回の演習に備えて必ず復習・確認しておくこと。（学習時間2時間）						
授業方法	講義：毎回、テーマについてグループまたはペアによるディスカッションやロールプレイを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。 演習：講義で学修した実技項目についてグループまたはペアによる演習を行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえ、重要事項について解説・講義を行う。 授業の事後学習には、松蔭manabaを利用して確認テストを実施する。						
評価基準と評価方法	①演習、実技講習でのパフォーマンス40%、到達目標（1）（2）に関する到達度の確認。 ②各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント、質問）の内容、記述的的確さ等を評価30%、到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認 ③レポート20%、到達目標（1）（2）（3）（4）に関する到達度の確認 ④グループワークでのパフォーマンス10%、到達目標（3）（4）に関する到達度の確認 上記を総合的に評価するが、積極的に授業に参加する等の態度面を重視する。 課題に対するフィードバックの方法 優秀レポート、リアクションペーパーについて翌週授業で紹介・解説する。 レポート、リアクションペーパーの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。またそれらに記載された質問については、翌週の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	・演習中心の講義であるので、積極的に演習に参加する学生の受講を期待する。 ・2/3以上の出席に満たない者は、単位認定を行わない。 ・遅刻、早退、途中退席等は、止む終えない場合を除き、認めない（20分以上の遅刻は欠席とみなす）。 ・演習を実施するのにふさわしい身だしなみや態度に注意すること。 ・欠席等でその項目の演習が出来ない場合は、別途日程を設定し、演習を行う。						
教科書	『これならわかる　子どもの保健演習ノート　改定第3版』榊原洋一監修　小林美由紀、診断と治療社、978-4-7878-2289-5						

参考書	・『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』，初版，鈴木美枝子編著，978-4794480576 ・『平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園・保育要領 原本』内閣府，文部科学省，チャイルド本社，978-4805402580 ・『保育者のための わかりやすい 子どもの保健』，初版，飯島一誠監修，稲垣由子，本田順子，八木麻理子，978-4-88924-264-5 ・『よくある子どもの病気・ケガまずの対応マニュアル：よくある症状への具体的な寄り添い方から保護者への伝え方まで（ハッピー保育アドバイス）』，新谷まさこ，初版，ひかりのくに，978-4564608520 ・『0～5歳児ケガと病気の予防・救急まるわかり安心BOOK』，金澤治，初版，ナツメ社，978-4816351884
-----	--

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会福祉／子ども発達Ⅳ（人権と福祉）						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバー	K73230
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会福祉の基礎を学ぶ						
授業の概要	子どもの健やかな成長・発達は、安定した暮らしを基盤として、年齢に応じた社会参加を通して促進されていく。しかし、人々が安定した暮らしを確保し、社会参加を進めていく過程では、さまざまな困難と向き合わざるをえないときがある。社会福祉はこのような状況にある人々が困難を解決していくことを支えるものといえる。貧困や虐待など、子どものいのちや生活にかかわる今日の問題状況を踏まえるとき、社会福祉の理念としくみ、相談援助の理論と実践等を理解していることは保育者として不可欠と言える。 本科目では、社会福祉の理念と歴史、子ども家庭支援と社会福祉、社会福祉の制度と実施体系、相談援助の理論と実践、利用者保護の仕組み、社会福祉の今日的課題について学びを深めていく。						
到達目標	(1) 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷を説明できる。（知識・理解） (2) 社会福祉における子ども家庭支援の視点を説明できる。（知識・理解） (3) 社会福祉の制度や実施体系を説明できる。（知識・理解） (4) 社会福祉における相談援助の考え方と方法を説明できる。（知識・理解） (5) 社会福祉における利用者保護の仕組みを説明できる。（知識・理解） (6) 社会福祉の動向と今日的課題を検討し、解決策を導くことができる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回 オリエンテーション／社会福祉の理念と歴史の変遷 第2回 子ども家庭支援と社会福祉 第3回 社会福祉の制度と法体系 第4回 社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設 第5回 社会福祉の専門職 第6回 社会保障および関連制度の概要 第7回 相談援助の理論 第8回 相談援助の意義と機能 第9回 相談援助の対象と過程 第10回 相談援助の方法と技術 第11回 社会福祉における利用者の保護 第12回 少子高齢化社会における子育て支援 第13回 共生社会の実現と障害者施策 第14回 在宅・地域福祉の推進 第15回 諸外国の社会福祉の動向／まとめ 期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	大学における学びの基本は自発的、対話的で実践的な学修と考える。準備と授業については教員が学習環境として提供するものであり、自発的な学修の妨げにならない事が前提である。提供する環境は自らの責任で活用されたい。 <準備> ①各回に必要な基礎知識については、マナバを通じて解説動画（パワーポイントに音声をつけたもの）を、原則1週前に提示する。テキスト（あるいは資料）の該当箇所を参照しながら視聴しておくことが望ましい。各種の福祉制度、神戸市など身近な福祉サービスと利用方法については、社会資源リストとしてまとめておくことで、今後の学修に活かすことができる。 ②動画解説と同時にプレパレーションペーパーの課題を提示するので実施の上、マナバを通して提出する。（以上の学習時間120分程度） <授業整理> ①準備から授業を通して学んだことや疑問点は忘れないうちにメモをとっておき、疑問点は自ら調べたり教員に質問するなどして、解決しておきたい。（学習時間60分程度）						
授業方法	準備におけるオンデマンド講義をベースに、授業中は、テーマを絞った講義、質疑と意見交換、グループディスカッション、知識の確認のための小テスト、などを組み合わせる。 ワーク等の成果の提出場所としてグループフォーム、マナバ（レポート、プロジェクト）などを組み合わせ、授業前・中・後に閲覧できるようにする。						
評価基準と評価方法	点数の配分 ・プレパレーションペーパー及びリアクションペーパー：30% ・小レポート：20% ・期末テスト 50% 採点基準 ・基本を押さえているが不十分である：6割前後 ・基本を押さえている：7割から8割まで ・発展性・独自性が認められる：8割から10割 採点基準を具体化したルーブリックは別表の通りである。						
履修上の注意	①学修の進め方は「授業外における学習」と「授業方法」を参照すること。 ②授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。						

教科書	『社会福祉』，松原康雄・坪洋一・金子充（編），中央法規，978-4-8058-5784-7
参考書	『社会福祉概論 その基礎学習のために』（六訂版），西村昇・日開野博・山下正國（編著），中央法規，978-4-8058-5474-7 『社会福祉・社会保障入門』，杉野緑，みらい，978-4-86015-420-2 『はじめての社会保障 福祉を学ぶ人に』，棕野美智子・田中耕太郎，有斐閣，978-4641221123 『相談援助』，倉石哲也・大竹智（編著），ミネルヴァ書房，978-4-623-07928-5 『社会福祉六法』（各年度版），ミネルヴァ書房編集部，ミネルヴァ書房，2019年度版は978-4-623-08542-2 『社会保障便利辞典』（各年度版），週刊社会保障編集部，法研，平成31年度版は978-4-86513-614-2 『21世紀の現代社会福祉用語辞典』，九州社会福祉研究会，学文社，978-4-7620-2369-9

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	社会福祉／子ども発達Ⅳ（人権と福祉）						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバ	K73230
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会福祉の基礎を学ぶ						
授業の概要	子どもの健やかな成長・発達には、安定した暮らしを基盤として、年齢に応じた社会参加を通して促進されていく。しかし、人々が安定した暮らしを確保し、社会参加を進めていく過程では、さまざまな困難と向き合わざるをえないときがある。社会福祉はこのような状況にある人々が困難を解決していくことを支えるものといえる。貧困や虐待など、子どものいのちや生活にかかわる今日の問題状況を踏まえるとき、社会福祉の理念としくみ、相談援助の理論と実践等を理解していることは保育者として不可欠と言える。本科目では、社会福祉の理念と歴史、子ども家庭支援と社会福祉、社会福祉の制度と実施体系、相談援助の理論と実践、利用者保護の仕組み、社会福祉の今日的課題について学びを深めていく。						
到達目標	(1) 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷を説明できる。（知識・理解） (2) 社会福祉における子ども家庭支援の視点を説明できる。（知識・理解） (3) 社会福祉の制度や実施体系を説明できる。（知識・理解） (4) 社会福祉における相談援助の考え方と方法を説明できる。（知識・理解） (5) 社会福祉における利用者保護の仕組みを説明できる。（知識・理解） (6) 社会福祉の動向と今日的課題を検討し、解決策を導くことができる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回 オリエンテーション／社会福祉の理念と歴史の変遷 第2回 子ども家庭支援と社会福祉 第3回 社会福祉の制度と法体系 第4回 社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設 第5回 社会福祉の専門職 第6回 社会保障および関連制度の概要 第7回 相談援助の理論 第8回 相談援助の意義と機能 第9回 相談援助の対象と過程 第10回 相談援助の方法と技術 第11回 社会福祉における利用者の保護 第12回 少子高齢化社会における子育て支援 第13回 共生社会の実現と障害者施策 第14回 在宅・地域福祉の推進 第15回 諸外国の社会福祉の動向／まとめ 期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	大学における学びの基本は自発的、対話的で実践的な学修と考える。準備と授業については教員が学習環境として提供するものであり、自発的な学修の妨げにならない事が前提である。提供する環境は自らの責任で活用されたい。 ＜準備＞ ①各回に必要な基礎知識については、マナバを通じて解説動画（パワーポイントに音声をつけたもの）を、原則1週前に提示する。テキスト（あるいは資料）の該当箇所を参照しながら視聴しておくことが望ましい。各種の福祉制度、神戸市など身近な福祉サービスと利用方法については、社会資源リストとしてまとめておくことで、今後の学修に活かすことができる。 ②動画解説と同時にプレパレーションペーパーの課題を提示するので実施の上、マナバを通して提出する。（以上の学習時間120分程度） ＜授業整理＞ ①準備から授業を通して学んだことや疑問点は忘れないうちにメモをとっておき、疑問点は自ら調べたり教員に質問するなどして、解決しておきたい。（学習時間60分程度）						
授業方法	準備におけるオンデマンド講義をベースに、授業中は、テーマを絞った講義、質疑と意見交換、グループディスカッション、知識の確認のための小テスト、などを組み合わせる。ワーク等の成果の提出場所としてグーグルフォーム、マナバ（レポート、プロジェクト）などを組み合わせ、授業前・中・後に閲覧できるようにする。						
評価基準と評価方法	点数の配分 ・プレパレーションペーパー及びリアクションペーパー：30% ・小レポート：20% ・期末テスト 50% 採点基準 ・基本を押さえているが不十分である：6割前後 ・基本を押さえている：7割から8割まで ・発展性・独自性が認められる：8割から10割 採点基準を具体化したルーブリックは別表の通りである。						
履修上の注意	①学修の進め方は「授業外における学習」と「授業方法」を参照すること。 ②授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。						

教科書	『社会福祉』，松原康雄・坪洋一・金子充（編），中央法規，978-4-8058-5784-7
参考書	『社会福祉概論 その基礎学習のために』（六訂版），西村昇・日開野博・山下正國（編著），中央法規，978-4-8058-5474-7 『社会福祉・社会保障入門』，杉野緑，みらい，978-4-86015-420-2 『はじめての社会保障 福祉を学ぶ人に』，棕野美智子・田中耕太郎，有斐閣，978-4641221123 『相談援助』，倉石哲也・大竹智（編著），ミネルヴァ書房，978-4-623-07928-5 『社会福祉六法』（各年度版），ミネルヴァ書房編集部，ミネルヴァ書房，2019年度版は978-4-623-08542-2 『社会保障便利辞典』（各年度版），週刊社会保障編集部，法研，平成31年度版は978-4-86513-614-2 『21世紀の現代社会福祉用語辞典』，九州社会福祉研究会，学文社，978-4-7620-2369-9

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	障害児保育／子ども発達III（障害児と環境）						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバー	K72210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	障害のある子どもと家族が、安定した生活の中で成長・発達していけるような保育を構成していくための考え方と方法を学ぶ。						
授業の概要	障害のある子どもの保育は、子どもの状態に応じた保育によって生活に適応し、発達が促進されるよう個別のかわりを含めた取り組みが必要となる。また、一緒に生活する子どもたちと共に発達していけるような配慮が必要となる。そのため、家族や専門機関との連携を行っていく必要がある。本講義では、これら障害児保育の基本課題を踏まえ、保育所において出会うことのある代表的な障害の基本的理解と合理的配慮を深めると共に、日々の保育実践の展開の方法を学ぶことから始める。その上で、保護者の支援、きょうだいの支援に保育士としてのようにかかわるかについて、検討を進めていきたい。						
到達目標	1. 障害のある子どもと家族が抱えがちな生活のし辛さを理解し、どのような配慮が求められるかについて説明できる。【知識・理解】 2. 個々の子どもと家族の状況を把握し、特別な支援を含む適切な保育を保護者や関係者と共に構成し、展開していく方法を説明できる。【汎用的技能】 3. 障害のある子どもの保護者は、保育士にとって共に子どもの生活を支え、発達を促進するパートナーであると共に、支えられるべき存在でもあることを理解し、保護者が子育てに自信をもつことができるような支援の進め方を説明できる。【知識・理解】 【汎用的技能】 4. 障害のある子どものきょうだいの支援について関心を持ち、保育士としてできることを検討できる。【知識・理解】 【汎用的技能】						
授業計画	第1回：障害のある子どもと保育 第2回：発達の個人差と偏り 第3回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する ①視覚障害、聴覚障害、肢体不自由 第4回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する②知的障害、発達障害 第5回：障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する③病弱・身体虚弱 第6回：支援方法を理解する①「心の支援」 第7回：支援方法を理解する②「発達論による支援」 第8回：支援方法を理解する③「行動への支援」 第9回：支援方法を理解する④「環境調整による支援」 第10回：支援方法を理解する⑤「家族及び周囲の人の連携による支援」 第11回：保護者の支援 第12回：きょうだいの支援 第13回：医療、福祉との連携 第14回：個別的教育支援計画 第15回：ケーススタディ 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業前準備学習：プレパレーションペーパー（レポート）の作成（学習時間120分程度） ・プレパレーションペーパーは「レポート」として評価する。 ・課題は授業の原則1週間前にマナバに掲示する。テキストの指定箇所（必要に応じて配付資料）を参照して課題を完成させ、期限内にマナバ経由で提出する。 教材・教具の作成等、マナバで提出が難しい場合は、授業当日に提出するように指示する。 ・プレパレーションペーパーは受講生全員が閲覧できるように設定するので、個人の経験等を記述する場合は、個人情報等に留意すること。 ・授業計画とテキストの該当箇所は下記の通りである。 学習状況を踏まえて調整する場合はマナバにて通知する。 第1回 テキスト lesson1 第2回 テキスト lesson2, 3 第3回 テキスト lesson4 第4回 テキスト lesson4, lesson5 第5回 テキスト lesson4 第6回 テキスト lesson6 第7回 テキスト lesson7 第8回 テキスト lesson8 第9回 テキスト lesson9 第10回 テキスト lesson10 第11回 テキスト lesson14 第12回 別途配付資料 第13回 別途配付資料 第14回 テキスト lesson11, 12 第15回 テキスト lesson13 2. 授業後学習：振り返り（学習時間60分程度） ・授業資料の末尾にノート欄をおくので、授業を通して得ることができた知識や技能、疑問点、今後深めていきたい点を整理する。 ・ノートと合わせて返却されたリアクションペーパーを整理しておく。 ・プレパレーションペーパー等の提出物は再提出を求める場合がある。その場合は、期限までに提出する。						

授業方法	・講義にグループワーク、発表等を加えて進めていく。 ・提出されたプレパレーションペーパーの内容と教員のコメントを共有して授業（講義、グループワーク）に活かしていく。 ・学生が主体となってミニ授業等を行うことがある。
評価基準と評価方法	定期試験 50% レポート 35% 発表・提出物 15% 発表・提出物は、グループワークの成果物やアクションペーパーをさす。
履修上の注意	<連絡> ・上述の準備課題に加え、各種の連絡はマナバを通して行う。マナバのリマインダには注意する。 <欠席> ・資料類やアクションペーパーは適宜、出席者に配付する。欠席した場合は教員研究室にて受け取るか、つぎの授業回で受け取る。 ・学外実習等による欠席の際は、実習終了後、テキスト等の該当箇所を読んでプレパレーションペーパーを作成して提出する。また、講義資料に示されている課題に取り組んで、提出する。 ・授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末テストの受験資格を失うものとする。 <評価> ・目標への配分（各々について定期テスト50%、レポート35%、発表・提出物15%） ①障害のある子どもと家族が抱えがちな生活のし辛さを理解し、どのような配慮が求められるかについて説明できる（知識・技術）。40点 ②個々の子どもと家族の状況を把握し、特別な支援を含む適切な保育を保護者や関係者と共に構成し、展開していく方法を説明できる（汎用的技能）。40点 ③障害のある子どもの保護者は、保育士にとって共に子どもの生活を支え、発達を促進するパートナーであると共に、支えられるべき存在でもあることを理解し、保護者が子育てに自信をもつことができるような支援の進め方を説明できる（知識・技術）。10点 ④障害のある子どものきょうだいの支援について関心をもち、保育士としてできることを検討できる（知識・技術）。10点 ・評価基準が下記を基本とする。 AA、A：根拠をもって述べることができる、発展性・独自性が認められる。 B：おおむね基本を押さえている。 C：基本を押さえているが不十分な箇所が目立つ。 ・プレパレーションペーパーはテキスト及び配付物の概要や基礎となる知識を整理する重要な要素であり「レポート」として評価する（全体の35%）。記述が不十分な場合には再提出を求めることがある。 ・グループワークの成果物には、発表やミニ授業とその際に使われた資料類を含む。また、振り返りのためにアクションペーパーの提出を求めることがある。これらは「発表・提出物」として評価する（全体の15%）。 <理解を確実なものとするために> ・授業内容の理解のためには、ボランティア活動等で障害のある子どもと接する機会を設けることが望ましい。ボランティア活動が難しい場合は、図書館にあるDVDを視聴するなど、経験を補うことが不可欠である。 <試験について> ・定期試験は16回目に実施する。 ・定期試験の詳細は授業中に説明する。
教科書	『障害児保育ワークブック』、星山麻木（編）、萌文書林、978-4-89347-250-2
参考書	・『障害のある子の支援計画作成事例集 発達を支える障がい児支援利用計画と個別支援計画』、日本相談支援専門員協会（編）、中央法規、978-4-8058-5292-7 ・『基礎から学ぶ障害児保育』、小川英彦（編）、ミネルヴァ書房、978-4-623-07991-9 ・『障害児保育』、第2版、鯨岡峻（編）、ミネルヴァ書房、978-4-623-06549-3 ・『保育者のためのテキスト 障害児保育』、近藤直子・白石正久・中村尚子（編）、全障研出版部、978-4-88134-125-4 ・『医療保育セミナー』、日本医療保育学会（編）、健帛社、978-4-7679-5033-4

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	小児体育						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	K01080
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	幼児期の運動発達と理解および援助						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって心身の健康の基盤を培う重要な時期である。幼児期に遊びの中で十分体を動かし、諸機能の発達を促し、児童期へと繋げていくことが大切である。さらに遊びを通して認知的、情緒・社会的発達を相互に関連させながら発達していく。これらを理解し、年齢による発達を踏まえ、適切な指導や援助ができる基礎的技能を習得する。						
到達目標	(1) 発達段階を捉え、年齢に応じた運動遊びを行うことができる。【汎用的技能】 (2) 指導計画の細案を立案し指導できる。【態度・志向性】 (3) 各年齢の発達を理解している。【知識・理解】 (4) これらを総合し、各自新たに指導計画を作成することができる。【汎用的技能】						
授業計画	1 現在における学童期・幼児期の運動の問題点 2 幼児期における運動遊びの意義 3 1歳までの運動発達 4 2・3歳までの運動発達 5 4・5歳までの運動発達 6 細案の作成について 7 未満児の細案作成（1～3歳） 8 4歳・5歳の細案作成 9 鬼あそびの展開 10 ボールあそびの展開 11 フープ遊びの展開 12 身近なものを利用した遊びの展開 13 細案から指導計画の作成について 14 指導計画の立案 15 指導計画の立案とふりかえり						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：小学校の体育と幼児期の遊びの相違を理解し、書物等で調べておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：模擬保育後の指導計画の見直し。（学習時間3時間）						
授業方法	実技・演習						
評価基準と評価方法	細案と発表（40％）指導計画（20％）リアクションペーパー等による平常点（40％）						
履修上の注意	①資格・免許必修科目であることから、意欲的に授業に臨むこと。 ②体操服、シューズを着用し、頭髪等の身なりを整え受講すること。						
教科書	「子どもが育つ運動遊び」みらい ISBN 978-4-86015-379-3						
参考書	「遊びの指導」 幼少年教育研究所 同文書院 ISBN978-4-8103-0037-6						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	図工科研究						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K72480
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	図工科教育の意義について考える						
授業の概要	この授業では美術および図工科教育を具体的なイメージをもって理解することを目指す。図画工作科の意味と意義について検証するために、図工科教育の理念、図工科教育史、小学校学習指導要領図画工作編、子どもの発達と表現形式の変化についての基本的な知識を得るとともに、事例研究や実技を伴う実践的な試行を通じて図画工作科の学習を通じて培われる発想や構想力や表現技能を体感し、図工科の授業設計に役立つ力を身につける。						
到達目標	1. 図工科教育の変遷を踏まえて、学習指導要領を理解している。（知識・理解） 2. 子どもの美術表現を俯瞰的に見ることができ、その発達と特質を、事例を通じて説明することができる。（知識・理解） 3. 美術の多様な表現方法を学び、子どもの活動や自分の表現を発想や技能の視点から分析できる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回：美術について考える：子どもの作品・美術作品を観る 第2回：図工科教育の理念と目標：学習指導要領解説 第3回：図工科教育の流れ 第4回：学習指導要領図画工作科の内容について 第5回：事例を通じて子どもの表現の発達を理解する 第6回：子どもの表現の発達の特徴をファイルする 第7回：美術表現の構想と表現の関係 第8回：実践研究（1）造形遊びの研究 第9回：実践研究（2）造形遊び実践の考察－記録・プレゼン・manabaによる共有 第10回：実践研究（3）絵に表す 第11回：実践研究（4）絵に表す実践と評価 第12回：実践研究（5）立体・工作に表す 第13回：実践研究（6）立体・工作に表す実践の考察と相互評価 第14回：実践研究（7）鑑賞の実践とプレゼンテーション 第15回：図工科教育の課題－グループディスカッション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に沿って授業ごとに必要な次回の課題を指示する。課題のキーワードを参考図書などで調べておくこと。材料用具が必要な場合は、それらの教材研究を各回ごとにし、次回授業に役立つようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：授業ごとに小課題を課す。各回の内容を系統的にまとめ、最終的に提出できるようにファイルに蓄積しておくこと。（学習時間2時間）						
授業方法	演習：実践的な授業再現や実技的な内容を含んだグループワークとディスカッションを行い、それらを基にした討議形式で進めていく。						
評価基準と評価方法	課題レポート30%、実践的授業の記録あるいは作品とレポート50%、プレゼンテーション等20%						
履修上の注意	・履修者は基本的な美術教材（1年次の美術表現で購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入する。 ・各回に必要な教材については随時伝達するので、各自準備を怠らないこと。 ・指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。						
教科書	山口善雄・佐藤昌彦・奥村高明編著『小学校図画工作科教育法』 建帛社 ISBN978-4-7679-2113-6 C3037 文部科学省『小学校学習指導要領図画工作編』日本文京出版 ISBN978-4-536-59011-2C3037						
参考書	『ニュー・ベーシック・アート・シリーズ』 TASCHEN 70人以上の芸術家の作品が紹介されている。その他必要に応じて授業内で紹介する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	総合的な学習の時間の指導法						
担当教員	秋山 麗子					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業のテーマ	「総合的な学習の時間」の意義について理解し、授業として実践するための基礎を身に付ける。						
授業の概要	総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す教科外学習である。ここでは、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを児童生徒は行う必要がある。そこで、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につけることを目指す。						
到達目標	「総合的な学習の時間」の理念や意義への理解を深めるために、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。【知識・理解】また、総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。【汎用的技能】このとき、総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 「総合的な学習の時間」の成立、現状と課題 第3回 総合学習の源流：歴史的背景 第4回 総合学習の源流：各国における試み 第5回 現場実践の紹介：体験学習としてのものづくり 第6回 「総合的な学習の時間」で取り組むキャリア教育 第7回 「総合的な学習の時間」で取り組む生命教育と食育 第8回 「総合的な学習の時間」で取り組む環境教育と国際理解教育 第9回 生徒指導と「総合的な学習の時間」 第10回 「総合的な学習の時間」において求められる教師の力量 第11回 「総合的な学習の時間」の指導計画づくり（第3学年、第4学年） 第12回 「総合的な学習の時間」の指導計画を発表する（第3学年、第4学年） 第13回 「総合的な学習の時間」の指導計画づくり（第5学年、第6学年） 第14回 「総合的な学習の時間」の指導計画を発表する（第5学年、第6学年） 第15回 「総合的な学習の時間」における評価とまとめ：ポートフォリオ評価を中心に						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習を行うこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：総合的な学習の時間の教材となりうる自然や社会の様々な事象について目を向け調査研究をする。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：グループによるワークショップやディスカッションを行う。また、総合的な学習の時間の学習内容について、グループまたはペアで調査研究をした結果を踏まえて、解説や講義を行う。						
評価基準と評価方法	授業毎の課題：30%、指導計画の提出：40%、発表：30%						
履修上の注意	使用したプリントは、各回の出席者のみ配布する。（欠席の場合は、翌週の授業時に限り再配布する）						
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月）978-4491034683						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月） 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	相談援助／社会福祉援助技術						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバ－	K73260
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育士に求められる相談援助の知識と技術を学び、支援過程を検討する。						
授業の概要	人々はそれぞれのライフコースにおいて自分らしくありたいと願い、安定した暮らしを確保し、社会に参加することを通して、ウェルビーイングを得ることができる。その過程は、いつも順調とは限らず、重い病気や障害、失業、社会的孤立、DVなどの生活問題に直面することがある。相談援助は、これらの生活問題に直面する人々をエンパワメントし、問題解決を支える専門的な支援といえる。それは、困難を抱える個人や家族に対する支援だけでなく、地域や制度に働きかける支援なども含む。 本講義では、相談支援の理念と方法を学ぶことで、保育士が寄り添う子どもと家族がさまざまな生活問題を抱えるとき、どのようにかわかり、問題解決を支援できるのか、学びを深めていく。						
到達目標	(1) 相談援助の定義、ベースにある人間観と倫理観、生活課題とその解決の捉え方などの概要を説明できる。【知識・理解】 (2) 相談援助の方法と技術について説明でき、保育士が用いる相談援助の方法と技術について意見を述べることができる。【知識・理解】 (3) 相談援助の具体的展開の諸局面の各々の位置、役割、課題を、事例を通して検討できる。【汎用的技能】 (4) 保育所における相談援助事例を通して、相談援助の展開を決定づけている保育士（保育所）の判断と行動を抽出、整理し、総合的に評価、検討できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション／相談援助とは何か①相談援助の意義 第2回 相談援助とは何か②相談援助の理論 第3回 相談援助とは何か③相談援助の機能 第4回 相談援助とは何か④相談援助とソーシャルワーク 第5回 相談援助とは何か⑤保育とソーシャルワーク 第6回 相談援助の方法と技術①相談援助の対象 第7回 相談援助の方法と技術②相談援助の展開過程 第8回 相談援助の方法と技術③相談援助の技術・アプローチ 第9回 相談援助の具体的展開①相談援助の計画・記録・評価 第10回 相談援助の具体的展開②関係機関との協働 第11回 相談援助の具体的展開③多様な専門職との連携 第12回 相談援助の具体的展開④社会資源の活用、調整、開発 第13回 事例の検討①虐待・ネグレクトへの支援 第14回 事例の検討②発達に課題がある子どもとその保護者への支援 第15回 事例の検討③ロールプレイ、フィールドワークによる事例の理解						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 授業前準備学習 ①プレパレーションペーパーはマナバを通して課題提示する。 テキストの該当箇所、その他資料等を検索するなどして参照の上完成させ、授業前の期限までに提出する。 提出後のプレパレーションペーパーは受講生が閲覧できるように設定するので、個人の経験を記述する場合は個人情報に留意する。 ②教員への質問はメールを通してやりとりする。 ③授業に向けて必要な福祉制度、身近な福祉サービスなどの社会資源リストを作成し、更新していくことが望まれる。 (学習時間120分程度) 2. 授業後学習 ①演習を通して学んだこと（知識・理解が不十分であったこと、授業で得た視点、新たな情報など）は各自ノートに整理する。 とくに他者（他の受講生）の視点に学ぶことで視野を広げるので、留意されたい。 ②リアクションペーパーは後日返却する。 コメントが入っている場合は目を通し、その後の学習に生かすこと。 必要があれば教員に質問をすること。 (学習時間60分程度)						
授業方法	①グループワークとプレゼンテーションを基本とする。 ②グループワークは提出したプレパレーションペーパーを基礎に行う。 プレパレーションペーパーの解答の不十分さを補うなど、必要に応じて、ワークの前に教員が解説を行う。 ③プレゼンテーションはグループワークの成果を発表し、意見交換を行う。 ④マナバを通して教員からの課題提示、学生によるレポートの提出、教員の評価とコメント提示などを行う。						
評価基準と評価方法	1. 点数の配分 ①プレパレーションペーパー20% ②グループワーク・発表：30% ③リアクションペーパー：10% ④最終のレポート：40% 2. 目標との関連 知識・理解の目標 (1) 30点 (2) 20点 汎用的技能の目標 (3) 30点 (4) 20点						

評価基準と 評価方法	3. 採点の基本的な基準 ・基本の押さえが不十分である：6割前後 ・基本を押さええている：7割から8割まで ・発展性・独自性が認められる：8割から10割
履修上の注意	①プレパレーションペーパー、レポート課題はマナバで提示する。 ②資料類、リアクションペーパーは適宜、出席者に配付する。 欠席者は谷川に連絡して入手すること。 ③演習であるので、出席して取り組んだことを重視して評価する。 実習による欠席者は、実習終了後にプレパレーションペーパーを作成する。 また、その回の演習課題に関する考察をA4判、1枚程度にまとめて提出する。 そのほかの理由での欠席でも同様に対応することが望ましい。 ④授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験（レポートによる）の受験資格を失うものとする。
教科書	『相談援助』倉石哲也・大竹智（編）、ミネルヴァ書房、978- 4623079285
参考書	『ソーシャルワーク論』，空閑浩人，ミネルヴァ書房，978-4623075553 『社会福祉概論 その基礎学習のために』西村昇ほか(編著)，中央法規，978-4-8058-5474-7 『ダイレクト・ソーシャルワーク ハンドブック』ジョアン・ラーセン，明石書房，978-4750341712

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	小学校で理科を自信を持って教えらるための、基礎知識基本技能を習得する。						
授業の概要	現場で求められている、理科を教えらる小学校の教員となるため、理科教育の知識や技能を深く修得し、また具体的な先行事例について調査研究をしながら、その方法を身に付けられるようにする。3回生のゼミ内容を引き継いで内容を深め、理科への興味関心が高まる教材開発を目指す。						
到達目標	(1) 情報を主体的・批判的に受容し、論理的に判断する能力を身につけ、自分の考えを的確に表現する高度なコミュニケーションをすることができる。【汎用的技能】 (2) 自立した人間として自己の確立と、身につけた知識を地域・社会に還元し他者と調和して生きようとする。【態度・志向性】 (3) 小学校で理科の授業を行える知識技術を身に付け、模擬授業などで発揮できる。【知識・理解】						
授業計画	第01回 ガイダンス 第02回 生命分野 学習内容と実験観察 第03回 生命分野 教材研究 第04回 生命分野 模擬授業演習 第05回 学校外施設を利用した理科教育 第06回 地球分野 学習内容と実験観察 第07回 地球分野 教材研究 第08回 地球分野 模擬授業演習 第09回 粒子分野 学習内容と実験 第10回 粒子分野 教材研究 第11回 粒子分野 模擬授業演習 第12回 エネルギー分野 学習内容と実験 第13回 研究テーマの設定 (1) 第14回 研究テーマの設定 (2) 第15回 中間まとめ 第16回 エネルギー分野 教材研究 第17回 エネルギー分野 模擬授業演習 第18回 先行事例研究、輪読1 (小学校3年理科) 第19回 先行事例研究、輪読2 (小学校4年理科) 第20回 先行事例研究、輪読3 (小学校5年理科) 第21回 先行事例研究、輪読4 (小学校6年理科) 第22回 中間報告 第23回 教材研究開発1 第24回 教材研究開発2 第25回 教材研究開発3 第26回 教材研究開発4 第27回 発表、指導1 第28回 発表、指導2 第29回 発表、指導3 第30回 まとめ (小学校理科を教えるには)						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回で取り扱う単元の予習、先行研究調査、文献検索、データ収集などを行う<2時間> 授業後学習：松蔭manabaを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する<2時間>						
授業方法	講義と演習：各単元のポイントについて講義後、ペアやグループで実験を行い、模擬授業を行う。模擬授業終了後、ディスカッションを行い振り返りをする。ICT機器を利用し、学生教員間、学生間で成果や情報の共有を行う。						
評価基準と評価方法	提出物：60% 指導案やリアクションペーパーなど授業での成果物と、授業後学習での改善した指導案の内容で評価する 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 授業態度：40% 模擬授業への取り組み、ディスカッションでの発言などを評価する 到達目標(2)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	理科研究、理科指導法、教育発達演習ABの内容を確認復習しておくこと。						

教科書	無し
参考書	

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	内田 祐貴					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	小学校で理科を自信を持って教えらるための、基礎知識基本技能を習得する。						
授業の概要	現場で求められている、理科を教えらる小学校の教員となるため、理科教育の知識や技能を深く修得し、また具体的な先行事例について調査研究をしながら、その方法を身に付けられるようにする。3回生のゼミ内容を引き継いで内容を深め、理科への興味関心が高まる教材開発を目指す。						
到達目標	(1) 情報を主体的・批判的に受容し、論理的に判断する能力を身につけ、自分の考えを的確に表現する高度なコミュニケーションをすることができる。【汎用的技能】 (2) 自立した人間として自己の確立と、身につけた知識を地域・社会に還元し他者と調和して生きようとする。【態度・志向性】 (3) 小学校で理科の授業を行える知識技術を身に付け、模擬授業などで発揮できる。【知識・理解】						
授業計画	第01回 ガイダンス 第02回 生命分野 学習内容と実験観察 第03回 生命分野 教材研究 第04回 生命分野 模擬授業演習 第05回 学校外施設を利用した理科教育 第06回 地球分野 学習内容と実験観察 第07回 地球分野 教材研究 第08回 地球分野 模擬授業演習 第09回 粒子分野 学習内容と実験 第10回 粒子分野 教材研究 第11回 粒子分野 模擬授業演習 第12回 エネルギー分野 学習内容と実験 第13回 研究テーマの設定 (1) 第14回 研究テーマの設定 (2) 第15回 中間まとめ 第16回 エネルギー分野 教材研究 第17回 エネルギー分野 模擬授業演習 第18回 先行事例研究、輪読1 (小学校3年理科) 第19回 先行事例研究、輪読2 (小学校4年理科) 第20回 先行事例研究、輪読3 (小学校5年理科) 第21回 先行事例研究、輪読4 (小学校6年理科) 第22回 中間報告 第23回 教材研究開発1 第24回 教材研究開発2 第25回 教材研究開発3 第26回 教材研究開発4 第27回 発表、指導1 第28回 発表、指導2 第29回 発表、指導3 第30回 まとめ (小学校理科を教えるには)						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回で取り扱う単元の予習、先行研究調査、文献検索、データ収集などを行う<2時間> 授業後学習：松蔭manabaを利用して、授業で扱った内容の確認、復習、改善方法を考察する<2時間>						
授業方法	講義と演習：各単元のポイントについて講義後、ペアやグループで実験を行い、模擬授業を行う。模擬授業終了後、ディスカッションを行い振り返りをする。ICT機器を利用し、学生教員間、学生間で成果や情報の共有を行う。						
評価基準と評価方法	提出物：60% 指導案やリアクションペーパーなど授業での成果物と、授業後学習での改善した指導案の内容で評価する 到達目標(1)(3)に関する到達度の確認 授業態度：40% 模擬授業への取り組み、ディスカッションでの発言などを評価する 到達目標(2)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	理科研究、理科指導法、教育発達演習ABの内容を確認復習しておくこと。						

教科書	無し
参考書	

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	垂髪 あかり					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	母子保健、特別支援教育分野についての卒業研究						
授業の概要	母子保健、特別支援教育を主とした内容で、それぞれの研究テーマに沿って卒業研究を進めていく。 研究方法は主に調査研究、文献研究、作品制作とし、自ら設定した課題を探究していく。						
到達目標	(1) 卒業研究に関する文献を収集し自ら設定した課題を意識して読み込み・整理することができる【知識・理解】 【汎用的技能】 (2) 先行研究の整理や研究課題、進捗状況について発表し、他者に説明できる【汎用的技能】 (3) 研究計画構成に基づき卒業研究、卒業論文を仕上げる【態度・志向性】 【汎用的技能】						
授業計画	1. オリエンテーション 卒業研究作成に向けて 2. 図書館オリエンテーション 文献収集の方法 3. 研究テーマ検討と設定 4. 研究テーマについてのプレゼンテーションとディスカッションー母子保健①ー 5. 研究テーマについてのプレゼンテーションとディスカッションー母子保健②ー 6. 研究テーマについてのプレゼンテーションとディスカッションー特別支援教育ー 7. 論文の書き方ーアウトラインの構成ー 8. 論文の書き方ーアウトラインの作成ー 9. 論文の書き方ー引用方法ー 10. 先行研究の整理① 11. 先行研究の整理② 12. 論文の書き方ー序章①ー 13. 論文の書き方ー序章②ー 14. 分析視点の設定 15. 調査研究の進め方 16. 調査に向けて 17. 分析に向けて 18～27 個別指導 28. 卒研発表に向けて 29～30 卒業研究発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：研究テーマに沿った先行文献の収集（学習時間3時間） 授業後学習：論文の見直しや途中経過、中間発表のパワーポイント等の発表準備（学習時間3時間）						
授業方法	全体指導と個別指導 講義では、テーマの設定、論文構成、論文の書き方、引用文献の用い方等について説明する。 個別指導では、論文執筆や作品作りについての支援を行う。						
評価基準と評価方法	研究に対する積極的な発表や質問。到達目標（1）（2） 20％ 論文作成。作品制作。到達目標（3） 60％ 研究発表。到達目標（2） 20％						
履修上の注意	研究テーマに基づき意欲的に進める。特に就活や実習と時期が重なることがあるので計画を立て臨むこと。						
教科書	「ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方」、石井一成、ナツメ社						
参考書	内容に応じて資料を配布する。						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	乳幼児の造形教育・美術教育の研究						
授業の概要	子どもの造形、美術教育にかかわる分野から設定した各自のテーマをもとに発表し、それに基づいた討論に補説を加えるという、学生主体の形式で進める。各自のテーマ、課題へのアプローチの仕方、研究内容、分析方法、探究度などについても具体的に検討する。自己のテーマを追求し、論文作成へと展開する中で、問題意識をもち、課題解決に向かう方法や分析力、プレゼンテーション力を身につける。						
到達目標	(1) 研究テーマの専門領域からの課題や意義を理解し、教育・保育・芸術などの観点から問題を認識することができる。 (2) プレゼンテーションを軸に意見交換し、互いの研究に対して理解を深める。 (3) 研究成果をまとめ、パワーポイントによる発表資料を作成わかりやすく発表することができる。						
授業計画	第1回 卒論について：テーマ設定、論文作成法 第2回 研究計画作成 第3回 研究計画作成 第4回 計画に従って、文献研究、調査研究等開始 第5回 研究計画に基づく研究 第6回 研究計画に基づく研究 第7回 研究計画に基づく研究 第8回 報告会 第9回 研究計画に基づく研究 第10回 研究計画に基づく研究 第11回 研究計画に基づく研究 第12回 研究計画に基づく研究 第13回 中間発表準備 第14回 中間発表 1 第15回 中間発表 2 第16回 論文骨子の確認 第17回 論文作成 第18回 論文作成 第19回 論文作成 第20回 論文作成 第21回 論文作成 第22回 報告会 第23回 論文作成 第24回 論文作成 第25回 論文作成 第26回 発表準備（卒業研究完成予定） 第27回 発表準備 第28回 卒論発表 第29回 卒論発表 第30回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：発表などに備えて、各回の配布資料を十分に検討し、討議できるようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：検討した課題について要点をまとめ、疑問があれば次回に質問や提案ができるようにする。（学習時間2時間）						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点（参加態度等）20%、論文と発表80%で評価する。						
履修上の注意	論文作成のプロセスで、学外に資料収集や研究で赴くことがあり、日程の変更や交通費などの費用が発生することがあるので留意すること。						

教科書	使用しない。 研究計画作成の方法、フィールドワークの方法など、必要に応じて資料を提供する。
参考書	各学生の研究に沿った文献を必要に応じて紹介する。

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	郭 暁博					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育政策学の領域で、各学生がテーマを設定し、論文執筆に向けての作業を行う。						
授業の概要	「教育発達演習A・B」での学びに基づいて、学生が自らが興味があるテーマについて、先行研究を調べ、研究のテーマを設定する。仮説を立て、これを検証するための妥当な研究方法（インタビュー、アンケート、文献研究など）を指導を受けながら選択し、研究を行う。「卒業研究」の成果をまとめるために、論文の書き方や作品としての表現の仕方についても詳細に指導を行う。複数回の中間報告の場を持ち、成果を発表し、学生や教員からのコメントや助言を踏まえて、探究を深め、論文や作品としての完成度を高める。なお、テーマに応じて論文以外にも、制作や表現も認め、大学における4年間の学びの集大成としての成果を一つの作品として完成させる。						
到達目標	①卒業論文のテーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解方法を学習する。【知識・理解】 ②参加者が興味・関心のある教育政策学等の基本学術論文・文献を、各自で調べて議論を重ねて、卒業論文を作成する。【汎用的技能】 ③自分の興味関心のテーマをより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 「教育学演習A・B」での学びに基づき、卒業論文のテーマを各自で整理し発表する。 第3回 卒業論文のテーマに関する先行研究、関連図書の収集・読解方法について解説する。 第4回 図書館での論文ガイダンス（1） 第5回 先行研究：近年における教育政策の改革動向 第6回 先行研究：論文と図書 第7回 先行研究の収集状況に対する報告（1） 第8回 先行研究の収集状況に対する報告（2） 第9回 先行研究の収集に対する検討・反省 第10回 卒業論文の構想発表：課題を考える 第11回 卒業論文の構想発表：テーマを仮設定する 第12回 卒業論文の構想発表：構成を考える 第13回 卒業論文の構想発表：文章を作成する 第14回 卒業論文の全体に対する質疑応答 第15回 前期の振り返りと後期の見通し 第16回 卒業論文の進捗状況についての報告 第17回 図書館での論文ガイダンス（2） 第18回 卒業論文の発表と検討：テーマを調整する 第19回 卒業論文の発表と検討：テーマを調整する 第20回 卒業論文の発表と検討：補足資料を検索する 第21回 卒業論文の発表と検討：補足資料を検索する 第22回 卒業論文の発表と検討：文章を作成・追加する 第23回 卒業論文の発表と検討：文章を作成・追加する 第24回 中間のまとめと質疑応答 第25回 学生による発表① 第26回 学生による発表② 第27回 学生による発表③ 第28回 全員でのグループ討論と相互評価 第29回 卒業論文の全体に対する質疑応答 第30回 全体のまとめと進路の報告						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容を事前に予習し、下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。その上、自分の最も興味関心のところを調べて、知見をより深める。（学習時間：2時間）						
授業方法	1. 前半は先行研究を整理し、関連図書の収集・読解方法を学習する。 2. 中盤は各自のテーマにおける学術的な論点を模索し、論文の構成を考える。 3. 後半は各自の成果を発表し、学生や教員からのコメントや助言を踏まえて、探究をさらに深め、論文を仕上げる。						
評価基準と評価方法	平常点20%（コメントカードや授業での発言など）到達目標①、③に関する到達度の確認 発表点30%（授業毎の課題および発表）到達目標②、③に関する到達度の確認 卒業論文50%（自分のテーマ）。到達目標①、②、③に関する到達度の確認						
履修上の注意	1. 2／3以上の出席を単位認定の基準とする。 2. 全員が教科書や自分のテーマで何度か発表する。 3. 毎回の授業で学生全員が積極的に発言する。						

教科書	各自のテーマに応じて、個別指導を行う。
参考書	各自のテーマに応じて、個別指導を行う。

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	金丸 彰寿					科目ナンバ	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	特別支援教育またはインクルーシブ教育に関する卒業論文の執筆（あるいは作品・表現の完成と評価）を通して、学問としての特別支援教育を探究し、教育現場における実践力の基礎固めを行い、学士課程教育の集大成とする。						
授業の概要	「教育学演習A・B」での学びに基づいて、学生が自らが興味があるテーマについて、先行研究を調べ、研究のテーマを設定する。仮説を立て、これを検証するための妥当な研究方法（インタビュー、アンケート、文献研究など）を指導を受けながら選択し、研究を行う。「卒業研究」の成果をまとめるために、論文の書き方や作品としての表現の仕方についても詳細に指導を行う。複数回の中間報告の場を持ち、成果を発表し、学生や教員からのコメントや助言を踏まえて、探究を深め、論文や作品としての完成度を高める。なお、テーマに応じて論文以外にも、制作や表現も認め、大学における4年間の学びの集大成としての成果を一つの作品として完成させる。						
到達目標	1. 特別支援教育またはインクルーシブ教育に関する研究テーマを立て、先行研究及び諸資料との対話によって背景を整理し、研究の目的や意義（論文でどこまで明らかにするか、作品・表現のコンセプトなど）やそれに応じた研究方法を設定し、他者が理解できる研究論文として執筆することができる。（汎用的技能） 2. 研究倫理に従って研究をすすめることができる。（汎用的技能） 3. 特別支援教育やインクルーシブ教育にかんする興味・関心を研究上の問いとして昇華し、問いに対する自分なりの答えを導く作業を通して、教育現場で働くときの視点につなぐことができる（態度・志向性）。 4. 受講生同士が、互いの研究過程とときどきの思い、視点、悩みなどを共有し、支援し合う チームングを展開し、対話的な姿勢を深めることができる。（態度・志向性）						
授業計画	授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：3年生で決めた卒業論文のテーマを振り返り発表する 第3回：テーマの調整と先行研究・諸資料の収集計画 第4回：特別支援教育の研究法（1）：文献研究（理論研究、歴史研究）の方法を学ぶ。 第5回：特別支援教育の研究法（2）：フィールドワークやアンケート・インタビュー調査の技法を学ぶ。 第6回：特別支援教育に関する先行研究・諸資料のレビューの実施（1）：収集状況報告とレビューの視点の明確化） 第7回：特別支援教育に関する先行研究・諸資料のレビューの実施（2）：レビュー結果の発表 第8回：特別支援教育に関する先行研究・諸資料のレビューの実施（3）：レビュー結果の発表の続き 第9回：目的の明確化と方法の設定（1）：目的の絞り込みと方法の調整、倫理審査の要否判断 第10回：目的の明確化と方法の設定（2）：研究方法の手続き・手順の調整 第11回：目的の明確化と方法の設定（3）：目的と方法並びに手順の決定 第12回：研究計画の発表 第13回：背景・目的・方法の執筆と計画の進捗状況報告（1）：計画全体の発表と修正 第14回：背景・目的・方法の執筆と計画の進捗状況報告（2）：修正した計画の発表と再吟味 第15回：夏休みの計画発表 第16回：夏休みまでの進捗状況の報告 第17回：グループ内での相互支援・交流と教員の指導（1）：研究目的や研究の背景にかんする対話 第18回：グループ内での相互支援・交流と教員の指導（2）：研究方法にかんする対話 第19回：グループ内での相互支援・交流と教員の指導（3）：研究結果、考察にかんする対話 第20回：グループ内での相互支援・交流と教員の指導（4）：中間報告の作成 第21回：全体での中間報告 第22回：中間報告を基にした議論 第23回：1次稿の作成と提出 第24回：1次稿のグループ内での相互検討と教員の指導（1）：研究目的と研究背景、研究方法にかんする対話 第25回：1次稿のグループ内での相互検討と教員の指導（2）：研究結果と考察にかんする対話 第26回：学生・教員による1次稿の課題や問題点の整理・共有 第27回：2次稿の作成と提出 第28回：卒業論文の最終報告の作成と準備 第29回：最終報告会 第30回：卒業論文の反省会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う文献を予習する。図書館なども活用する。分からなかったところや疑問点を整理して、議論に備える。発表担当者は、レジュメを作成し、発表の練習を行う。加えて、後半（第10回～第14回）については、自分のテーマについて事前に調べておく必要がある。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表や議論で出た論点や意見を復習し、自分の問いを立て深める上での参考とする。（学習時間：2時間）						
授業方法	演習：適宜、文献以外にも視聴覚教材も用いて、学生相互の議論を行う。発表分担は授業内に決める。発表、レジュメやレポートの作成などについては、授業内外で教員と相談しながら進める。						
評価基準と評価方法	発表やゼミ運営への参加55％、課題提出45％						

履修上の注意	・議論を通じて多様な意見のやりとりを楽しみ、ときには悩みながら学びましょう。 ・授業での議論が中心になるので、出席は重視します。 ・必要に応じて、学外に研修・見学に行く場合があります。その場合にかかる交通費その他費用について自己負担となります。
教科書	とくに設定しない。
参考書	授業中に適宜指示をする。

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	子どもの健康分野についての論文作成						
授業の概要	子どもの健康教育を主とした内容で、「教育発達演習A・B」での学習をもとに、それぞれの研究テーマに沿って進めていく。 研究方法は調査研究、文献研究とし、先行研究を熟読したうえで卒業研究の作成に取り組む。 3年次の研究計画に基づき、計画的に進め、研究目的から結果が得られるよう完成させる。						
到達目標	(1) 卒業研究に関する文献を収集し課題を意識し講読することができる【知識・理解】 (2) テーマに沿った文献を講読発表し、他者に説明できる【汎用的技能】 (3) 先行研究を熟読したうえで、構成に基づき論文を仕上げる【態度・志向性】						
授業計画	1. オリエンテーション 卒業研究作成に向けて 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマ設定 4. 研究テーマについてディスカッション 5. プロポーザルについて 6. プロポーザル発表 ー子どもに関してー 7. プロポーザル発表 ー保護者・保育者に関してー 8. 論文の書き方 ー構成についてー 9. 論文の書き方 ー引用方法ー 10. 文献検索 11. 先行研究の検討 12. 中間発表に向けて 13. 中間発表 ー子どもに関してー 14. 中間発表 ー保護者・保育者に関してー 15. 論文作成 16. 論文作成 ー考察のまとめ方ー 17. 論文作成 18～27 個別指導 28. 卒研発表に向けて 29～30 卒業研究発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：研究テーマの沿った先行研究、新聞等文献の収集（学習時間3時間） 授業後学習：卒研発表に向け、論文の見直しやパワーポイント等の発表準備（学習時間3時間）						
授業方法	全体指導と個別指導 講義では、テーマの設定、論文の構成の考え方、引用文献の用い方を説明する。 個別指導では、構成に沿って論文を書きながら課題を見つけ完成させる。						
評価基準と評価方法	論文に対する積極的な発表や質問。到達目標（1）（2） 20% 論文作成。到達目標（3） 60% 卒研発表。到達目標（2） 20%						
履修上の注意	研究テーマに基づき意欲的に進める。特に就活や実習と時期が重なることがあるので計画を立て臨むこと。						
教科書	内容に応じて資料を配布する。						
参考書	「よくわかる論文の書き方」 白井利明・高橋一郎 ミネルヴァ書房 「spssで学ぶ統計分析入門」 馬場浩也 東洋経済新報社						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	林 悠子					科目ナンバー	K04140
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	大学4年間での保育についての学びの集大成						
授業の概要	保育に関する各自の問題意識をもとに卒業研究に取り組み、ゼミでの発表・議論を経て、研究成果を卒業論文として完成させ、論文発表会を実施する。						
到達目標	1. 保育に関する問題意識に関する先行研究検討をもとに研究の問い（何をどこまで明らかにするのか）と研究方法を設定し、研究倫理を遵守した調査を行い、論文の形にすることができる。（汎用性技能） 2. 研究過程を通して、研究的態度を備えた実践者として保育現場での実践につなげることができる。（態度・志向性） 3. ゼミでの報告・議論を重ねることで、仲間との協同、対話を深めることができる。（態度・志向性）						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：春休みの課題報告・研究テーマについて共有 第3回：先行研究検討・文献収集方法の確認 第4回：先行研究レビュー発表と議論①各自の状況報告（前半） 第5回：先行研究レビュー発表と議論②各自の状況報告（後半） 第6回：研究目的の明確化 第9回：研究方法の設定・研究倫理 第10回：研究計画発表 第11回：研究計画の修正 第12回：調査準備と共有 第13回：調査準備の具体化 第14回：夏休みの課題の明確化 第15回：前期振り返りと個別指導 第16回：夏休みの各自の課題報告 第17回：進捗状況発表と議論①前半 第18回：進捗状況発表と議論②後半 第19回：研究過程における相互支援・共有（結果・考察について） 第20回：子どもと関わる企画・実践力向上（大学祭での子ども対象行事企画） 第21回：子どもと関わる企画・実践力向上（大学祭での子ども対象行事準備） 第22回：研究過程における相互支援・共有（執筆について） 第23回：一次稿完成・提出 第24回：一次稿の共有と議論（前半） 第25回：一次稿の共有と議論（後半） 第26回：二次稿作成と提出 第27回：修正作業 第28回：卒論発表会準備 第29回：卒論発表会 第30回：研究の振り返り共有						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	準備学習：研究に関連のある文献調査と発表に向けた準備（2時間） 授業後学習：授業での論点を踏まえ、研究上の課題を整理し、必要な資料収集や調査分析を進める（2時間）						
授業方法	・演習：学生が主体で発表・議論の運営を行う。毎回司会者を決めて運営する。発表者は各自で配布資料等を準備して出席する。 ・個別指導は授業時間外に実施する。						
評価基準と評価方法	発表（レジュメ等資料作成含む）・ゼミ運営・議論への参加(50%) 課題提出(50%)						
履修上の注意	・卒業論文の提出が大前提です。各自責任をもって形にし、手続き等不備がないようにしてください。 ・前期・後期それぞれで3分の1以上の欠席（15回中5回以上）は評価対象外とします（実習を除く）。 ・学生さんが主体で運営します。受け身では成り立ちませんので責任と積極性をもって臨んでください。 ・発表と議論が中心です。ゼミメンバーでの交流に意欲的になってください。 ・必要に応じて、夏休み等授業時間外に学外見学等の実施の可能性もあります。その際の交通費・入館料等は自己負担となります。 ・状況に応じて、授業外でのイベント等への参加・実践の機会を検討し、企画実践力向上を図ります。大学祭が開催される場合は、子どもと交流できる企画を準備運営してもらいます。大学祭が中止の場合は研究の進捗状況報告と議論を実施します。 ・後輩学生への助言や交流の機会を設けます。先輩としての皆さんは後輩にとって素敵なモデルとなりますので						

履修上の注意	、様々な形でよい刺激をもたらしてください。 ・
教科書	特に指定しない。
参考書	授業内で適宜指示します。

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	体育科研究						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	K71440
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	小学校における体育科の理論と実践						
授業の概要	小学校学習指導要領に基づき、各学年における指導の領域を理解し、指導する力を身につける。 また、幼児教育、中等教育との接続を踏まえ、自身の身体能力を高めることは勿論のこと、情緒面や知的発達を促すことや集団活動などを通してコミュニケーション能力を育成し、教師としてこれらを育成する前提となる学習を行う。さらに、論理的思考力を育むことを踏まえ、生涯にわたって運動に親しむことができるように指導する能力を養う。						
到達目標	小学校における体育科を考えると、低学年においては幼児期の運動発達をしっかりと捉える必要がある。そのためには教師自身が幼小の連携について理解しておかなければならない。本授業の到達目標は、①各学年において学習する運動領域を理解する【知識・理解】、②小学校体育のあり方を実践的に学び、教師としての資質・能力を高める【汎用的技能】、の2つができることとする。						
授業計画	授業計画 第1回 オリエンテーション：授業概要と導入 意識づけ 第2回 小学校体育の意義とねらい 第3回 学習指導要領 基本方針及び改善事項の理解 第4回 幼児期の運動遊び 第5回 小学校体育の考え方 第6回 からだほぐし運動 第7回 からだづくり運動 第8回 ボール運動（中学年） 第9回 ボール運動（高学年） 第10回 子どもの体力と遊び 第11回 走・跳の運動 第12回 器械運動（マット・跳び箱） 第13回 ボール運動（ゴール型） 第14回 ボール運動（ベースボール型） 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	小学校学習指導要領解説 体育編および小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック 低学年・中学年・高学年を読み、各学年の目標や内容を把握しておくこと。（準備のための学習：1.5時間）。また、授業後にはその授業回のテーマおよび内容についてまとめるとともに発展型として、その回のテーマでの授業指導案を簡易的に作成する（応用の学習：2.5時間）。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	授業態度 (50%)，課題達成度 (30%)，レポート (20%)						
履修上の注意	・教師になるための授業であることを理解し、まじめに取り組むこと。 ・授業に臨む態度は厳正に評価する。 ・演習にあたっては、運動に適した服装で、シューズを着用し頭髪などの身なりを整えて受講すること。 ・12回以上出席すること。 ※ 授業に関する質問は授業の前後に受け付けます。それ以外の時間帯は、教職支援センターに申し出てください。						
教科書	文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年3月）						
参考書	文部科学省 小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年7月） 小学校体育（運動領域）まるわかりハンドブック 低学年・中学年・高学年						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	特別支援教育入門						
担当教員	金丸 彰寿					科目ナンバ-	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜5	配当学年	3～4	単位数 2.0
授業のテーマ	障害、文化的差異や貧困など、多様な特別な教育的ニーズのある子どもの特性、発達や生活の様子等の実態及び、それらを踏まえた支援対応の基本的知識を学ぶ。						
授業の概要	多様な人々を包摂する共生社会の創造に向けて、次世代の担い手である障害のある子どもの全体像をトータルに理解するため、障害の階層性や環境との相互作用などの考え方を有する国際的な障害概念や、インクルーシブ教育に基づく特別支援教育の意義について概説する。それを踏まえて、特別支援教育の教育課程、通級による指導や自立活動の意義、特別支援教育コーディネーターを中心とした連携、視覚障害、聴覚障害、知的障害（軽度知的障害も含む）、肢体不自由、病弱、や発達障害などの特性や支援方法の基礎的事項を講義する。加えて外国人児童や貧困問題などの特別な教育的ニーズのある子どもの支援の基礎的事項に言及する。理解を深めるため、毎回ミニレポートを課す。各回の授業については、特別支援教育の歴史・思想の事項、特別支援教育の理念、社会的・制度的・経営的事項を中心に扱う。						
到達目標	(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解について、①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。②発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 (2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について、①発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。②「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。③特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別的教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。④特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。 (3) 障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について、①母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。						
授業計画	第1回：国際的な障害概念と特別支援教育 第2回：特別な教育的ニーズと特別支援教育 第3回：インクルーシブ教育システムに位置づく特別支援教育の理念と目的 第4回：障害のある子どもの理解と支援①「視覚障害と聴覚障害を中心に」 第5回：障害のある子どもの理解と支援②「発達障害を中心に」 第6回：障害のある子どもの理解と支援③「知的障害（軽度知的障害も含む）を中心に」 第7回：障害のある子どもの理解と支援④「肢体不自由と重度重複障害を中心に」 第8回：障害のある子どもの理解と支援⑤「病弱・身体虚弱を中心に」 第9回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援①「外国人児童生徒を中心に」 第10回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援②「貧困問題を中心に」 第11回：障害のある子どものライフステージに応じた教育支援計画 第12回：特別支援教育の教育課程①「教育課程の構造と指導計画」 第13回：特別支援教育の教育課程②「通級による指導を中心に」 第14回：特別支援教育の教育課程③「自立活動を中心に」 第15回：特別支援教育における支援体制と連携 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点や分からない点を整理して授業に臨む（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業内容の要点とそれに対する自分の意見をミニレポートとしてまとめて提出する（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義：各回のテーマに関するディスカッションやグループ（ペア）ワークを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	1. 教育学部生は全員必修であるため、必ず受講すること。 2. 5回以上、欠席した場合は、受験資格を失う。 3. ミニレポートは出席確認を兼ねるため、ミニレポートを確認できれば出席したと見なさないで要注意。 4. レポートの提出や記述式試験にあたって特別な配慮が必要な場合は、前もって相談に来ること。						
履修上の注意	・定期試験（70%）・レポート（30%）						
教科書	『新しい特別支援教育のかたち インクルーシブ教育の実現に向けて』 吉利 宗久、是永 かな子、大沼 直樹培風館 ISBN 9784563052492						

参考書	参考書・参考資料等 ・『キーワードブック特別支援教育——インクルーシブ教育時代の障害児教育』，玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編クリエイツかもがわ，ISBN978-4-86342-155-4 ・『日本型インクルーシブ教育への道—中教審報告のインパクト—』，渡部昭男編，三学出版，ISBN978-4-903520-70-4
-----	---

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	美術実技／図工実技Ⅱ						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K73250
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	美術を体感し、表現の展開に挑む						
授業の概要	美術表現の新しい表現技法を学び、自己表現における表現技術を高める。また、制作過程および完成作品を相互評価することを通して、表現、鑑賞、評価の力を養い子どもの造形表現や図画工作科における指導技術へつなぐ能力を付ける。この授業では、自由制作の枠を置き構想から表現までを各自プランする時間を設けている。自分が表現したい内容に沿ってメディアを選択し、造形要素からの表現、コラージュ、版表現、立体や半立体による制作、工芸やデザイン的な表現など幅広い表現に挑戦し、表現活動の道筋を体験し学ぶ。						
到達目標	1. 新しい表現技術を使って作品を制作することができる。（知識・理解） 2. 自分のイメージに沿って材料を選択し、造形作品として具体化できる。（知識・理解） 3. 造形言語を使って自分の表現を言語化できる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回：材料と表現の関連について 第2回：紙の立体：基本操作と作品の構想 第3回：紙の立体：イメージを具体化する 第4回：ポップアップカード：しくみと構想 第5回：ポップアップカード：制作・完成 第6回：鑑賞と相互評価 第7回：動く立体：動きの原理 第8回：動く立体：デザインと制作 第9回：動く立体：完成と自己評価 第10回：版表現：版をつくる 第11回：版表現：刷り 第12回：自由制作・課題選択（選択）（1）構想・制作 第13回：自由制作・課題選択（選択）（2）制作 第14回：自由制作・課題選択（選択）（3）完成・展示 第15回：合評会による相互評価						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業回ごとにシラバスのテーマにあるワードを調べ、材料研究しておくこと。その際、造形の専門用語を使用できるようにし、提出課題への記入時に生かせるようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：制作過程や作品制作のコンセプトを確認し、美術的行為を言語化して自作を解説した小レポートを作成する。授業時間内に終了しなかったものを、次回または指定の期日までに完成させておくこと。（学習時間2時間）						
授業方法	実技：制作と評価、鑑賞を織り込む。特に作品の相互鑑賞を対話式に運び、造形表現の特質や美術表現の理論的背景を深く理解できるようにする。						
評価基準と評価方法	課題レポート、表現履歴及び作品の提出80%、相互評価・プレゼンテーション20%で評価する。						
履修上の注意	・履修者は基本的な美術教材（1年次の美術表現で購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入する。 ・実技を伴う回は必携。 ・各回に必要な教材については随時伝達するので、各自準備を怠らないこと。 ・指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。						
教科書	テキストは使用しない。 必要に応じて授業ごとに資料を配布する。						
参考書	『紙のフォルム』尾川宏著 求龍堂 『デザイナーのための折りのテクニック 平面から立体へ』ポール・ジャクソン著						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	美術実技／図工実技Ⅱ						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K73250
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	表現の体感と理解						
授業の概要	美術表現では造形とは何か、造形表現は子どもにとってどのような意味を持つのかなど、幼児造形教育の意味と意義について理論と実技の学びを通して理解する。造形理論の学習により造形表現の基礎基本を理解すると共に、教育現場で使われている材料研究を通して造形素材の特質や扱いを会得し、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行を経験する。学んだ造形表現の基本的な考えと表現技法を、造形表現の指導援助に生かせるようにする。						
到達目標	1. 子どもの造形活動や表現を理解し、造形理論や造形言語を用いて活動や作品を解説することができる。（知識・理解） 2. 表現技法をファイリングし、技法の特徴や方法を説明することができる。（知識・理解） 3. 造形要素や表現技法を有効に使用し、オリジナルの表現を生成することができる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回：子どもと美術ー領域表現と子どもの美術（造形）ー 第2回：美術表現の成り立ち（1）子どもの表現が生まれる道筋 第3回：美術表現の成り立ち（2）造形理論の理解と子どもの表現の見方 第4回：材料と表現 第5回：形と色の表現 第6回：五感と表現（1）五感で感じ形や色で表す（個人・共同） 第7回：五感と表現（2）他者の表現を鑑賞し、分析する 第8回：子どもが楽しむ表現技法の研究（1）パス・コンテの遊び 第9回：子どもが楽しむ表現技法の研究（2）絵の具の遊び 第10回：子どもが楽しむ表現技法の研究（3）版遊び 第11回：子どもが楽しむ表現技法の研究（4）いろいろな材料・用具の使用 第12回：子どもが楽しむ表現技法の研究（5）ファイリング 第13回：表現技法を生かす（1）構想・表現 第14回：表現技法を生かす（2）表現・完成 第15回：鑑賞を愉しむーまとめとして：PC、OHC等を使ったプレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：予告した各回の授業内容に沿って紹介した参考図書あるいは資料で事前学習しておくこと。実技を含む授業回に当たっては、材料用具の選定に留意すること。2時間。 授業後学習：特に実技を含む授業の事後に当たっては、授業時間内に終了しなかったものを次週、または指定の期日までに完成させておくこと。学んだ理論や実技的内容を応用できるように、子どもの表現や作家の作品を見て鑑賞眼を養うこと。2時間。						
授業方法	演習：造形理論及び感性にかかわる内容の回は、グループワークやでディスカッションを取り入れ、学生相互の理解を深める。授業全体を通じて幼児造形の特質や美術表現の理解を実技的体験を通じて理論的背景を把握できるようにする。						
評価基準と評価方法	課題レポート及び課題作品提出による評価80%、プレゼンテーション等の評価20%						
履修上の注意	授業に必要な教材は履修者全員購入する（卒業年次までの美術系授業で使用する）。実技を伴う授業回の場合、必要な準備物の予告をするので必携。 指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。						
教科書	テキストは使用しない。 プリントを適宜配布する。						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月）						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	美術表現						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K01160
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	表現の体感と理解						
授業の概要	美術表現では造形とは何か、造形表現は子どもにとってどのような意味を持つのかなど、幼児造形教育の意味と意義について理論と実技の学びを通して理解する。造形理論の学習により造形表現の基礎基本を理解すると共に、教育現場で使われている材料研究を通して造形素材の特質や扱いを会得し、造形操作や技法の習得と表現への展開法、幅広いメディアによるイメージ表現の試行を経験する。学んだ造形表現の基本的な考えと表現技法を、造形表現の指導援助に生かせるようにする。						
到達目標	1. 子どもの造形活動や表現を理解し、造形理論や造形言語を用いて活動や作品を解説することができる。（知識・理解） 2. 表現技法をファイリングし、技法の特徴や方法を説明することができる。（知識・理解） 3. 造形要素や表現技法を有効に使用し、オリジナルの表現を生成することができる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回：子どもと美術ー領域表現と子どもの美術（造形）ー 第2回：美術表現の成り立ち（1）子どもの表現が生まれる道筋 第3回：美術表現の成り立ち（2）造形理論の理解と子どもの表現の見方 第4回：材料と表現 第5回：形と色の表現 第6回：五感と表現（1）五感で感じ形や色で表す（個人・共同） 第7回：五感と表現（2）他者の表現を鑑賞し、分析する 第8回：子どもが楽しむ表現技法の研究（1）パス・コンテの遊び 第9回：子どもが楽しむ表現技法の研究（2）絵の具の遊び 第10回：子どもが楽しむ表現技法の研究（3）版遊び 第11回：子どもが楽しむ表現技法の研究（4）いろいろな材料・用具の使用 第12回：子どもが楽しむ表現技法の研究（5）ファイリング 第13回：表現技法を生かす（1）構想・表現 第14回：表現技法を生かす（2）表現・完成 第15回：鑑賞を愉しむーまとめとして：PC、OHC等を使ったプレゼンテーション						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：予告した各回の授業内容に沿って紹介した参考図書あるいは資料で事前学習しておくこと。実技を含む授業回に当たっては、材料用具の選定に留意すること。2時間。 授業後学習：特に実技を含む授業の事後に当たっては、授業時間内に終了しなかったものを次週、または指定の期日までに完成させておくこと。学んだ理論や実技的内容を応用できるように、子どもの表現や作家の作品を見て鑑賞眼を養うこと。2時間。						
授業方法	演習：造形理論及び感性にかかわる内容の回は、グループワークやでディスカッションを取り入れ、学生相互の理解を深める。授業全体を通じて幼児造形の特質や美術表現の理解を実技的体験を通じて理論的背景を把握できるようにする。						
評価基準と評価方法	課題レポート及び課題作品提出による評価80%、プレゼンテーション等の評価20%						
履修上の注意	授業に必要な教材は履修者全員購入する（卒業年次までの美術系授業で使用する）。実技を伴う授業回の場合、必要な準備物の予告をするので必携。 指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。						
教科書	テキストは使用しない。 プリントを適宜配布する。						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月）						

授業のテーマ	子どもを主体とした保育指導法		
授業の概要	幼児期は、遊びを中心とした生活の中で生涯に渡って重要な人格の基礎を培う。遊びとは、幼児が自ら主体となって展開するものであり、その中で大切な学びを得る。そのためには、保育者が高い専門性をもち、役割を自覚することが重要である。		
到達目標	・ 幼児期の「遊び」や「学び」の意味や重要性を理解し、その意義について述べるができる。【知識・理解】 ・ 幼児期の発達の特性を理解し、育ちを支える保育者の役割や実践するための様々な方法を知る。【汎用的技能】		
授業計画	第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	オリエンテーション 幼児期にふさわしい生活 環境の構成と保育の展開 「遊び」の指導 「生活」の指導 学び合い育ち合うクラスづくり 園内外の環境を生かした保育 保育活動と行事 指導計画の立て方 幼稚園・保育所・小学校の連携 事例研究 危機管理 家庭との連携 保育者としての資質向上 まとめと授業評価(レポート提出)	:授業概要 「主体性」について考える :主体的な遊びが生まれる環境 :「環境を通して行う教育」とは :「遊び」の中にある「学び」 :「生活」の中にある「経験」 :個と集団の関係 :地域とのかかわり、園外保育 :環境としての行事 :「ねらい」と「内容」の立て方 :学びの連続性を考える 幼児期に育てたい10項目 :DVD視聴とディスカッション 保育者の姿勢 :安全管理と主体性 :保護者対応と情報発信 :園内研修や記録の活用 筆記試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習:目標に迫るための模擬保育が行えるよう、教材研究などを行う。 教科書の該当ページを読んでおく。（週2時間程度） 授業後学習:学習した内容を教科書で確認する。（週2時間程度） 課題解決に向けて、ボランティア等で積極的に保育現場とかわる。		
授業方法	講義 事例やDVD視聴後にグループでディスカッションし、感想や考えを出し合う。正解を求めるのではなく、考えを言語化する経験を大切にしたい。		
評価基準と評価方法	筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。		
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。		
教科書	幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年 フレーベル館		
参考書	保育所保育指針 厚生労働省		

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅰ（施設）						
担当教員	塚元 重範					科目ナンバー	K73560
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	児童福祉施設の保育士のあるべき姿を学ぶ						
授業の概要	児童福祉施設で実際に子どもや利用者と生活を共にする中で、子どもや利用者の理解、施設で働く保育士の職務、職員間の連携や施設の役割・責任などの理解、家庭環境の理解などを実践的に学ぶ						
到達目標	施設で過ごす子どもや利用者との関わりを体験し、子どもや利用者に対し適切な対応や共感的な対応ができる。 （汎用的技能）（態度・志向性） 施設の役割や保育士の基本的な役割を説明できる。（知識・理解）						
授業計画	授業は実習先である児童福祉施設において行われる。１０日間にわたる概要は次の通りであるが、実習先の事情により内容が多少変わる場合もある。 ○実習前段階として ＊学内での事前指導（実習の心得、諸注意、実習意義・目的・内容・方法、それぞれの施設の対象児・者の理解・かかわり方、児童福祉施設に関係する制度・法律・社会背景などの理解を深める） ○第1段階（１～7日目） 観察実習（実習施設の組織・種類・特性の理解、職員の職種（専門家）の働きと役割・連携の取り方、子どもや利用者のニーズ、施設の一日の流れなどを理解する） ○第2段階（８～１０日目） 観察に加え、部分的な参加を伴う参加実習（子どもや利用者へのサポートやかかわりを実際に保育士の補助をしながら体験する。また、環境整備や教材準備等を補助する。援助計画を理解する） ○実習事後段階として ＊事後指導（自己評価・反省、感想・レポートの提出、実習報告会への出席、実習記録の提出、自己課題の達成度確認等） ＊実習全期間を通して実習の記録をする						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	児童福祉施設の見学、施設でのボランティアを体験する。 現代の子どもたちがおかれている社会や家庭の状況、子どもたちの育ちの様子等に関する情報をまとめる。（2時間） 児童福祉施設に関する法令、規則、基本となる指針等にふれる。（1時間） 実習中毎日振り返りを行い、反省考察を記録する。（3時間）						
授業方法	児童福祉施設における実習、教員による巡回訪問指導						
評価基準と評価方法	実習目的や方法等に関する理解度（レポートによる） 20％ 実習記録の内容 20％ 諸手続きへの取り組み 10％ 施設先の実習評価（出席を含め） 50％						
履修上の注意	遅刻・欠勤がないことはもとより、積極的に、誠実に実習に臨む。 施設の特徴を踏まえ、特に守秘義務の遵守、倫理観の基づく態度を持って実習に臨む。 指導者の助言を真摯に受け止め、子どもや利用者の立場を理解して共感的な態度で臨む。						
教科書	実習の手引き、事前授業で配布したプリント						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅱ（保育所）						
担当教員	林 悠子					科目ナンバー	K73580
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育所における実習への参加						
授業の概要	・ 保育所における実習に参加し、保育所生活の特性、子どもの発達過程を踏まえた子どもへの支援、保育士の業務への補助を通して、保育士に求められる応用的な専門的知識・技能を習得する。 ・ 実習記録への記載方法を習得し、記録を作成する。 ・ 実習指導案の作成方法を理解し、実際に指導案を作成し、自ら保育を実施する。						
到達目標	・ 保育所の社会的機能を具体的に理解する。（知識・理解） ・ 保育所生活の特性を理解する。（知識・理解） ・ 子どもの発達過程を理解する。（知識・理解） ・ 子どもの個人差を踏まえた個別的・集団的な支援ができる。（汎用的技能） ・ 保育士の職務の具体的内容を体得する。（態度・志向性）						
授業計画	実習Ⅱ（10日間）の、標準的な内容は以下のとおりである ・ 事前学習：保育所でのオリエンテーション（学外オリエンテーション）を受ける ・ 参加（部分）実習：数回の参加実習を、指導案を作成したうえで実施する ・ 責任実習：1～2回の責任実習を、指導案を作成したうえで実施する ・ 保育所の保護者に対する子育て支援への参加 ・ 実習記録（日誌）の作成 ・ 事後学習：各自の取り組みを自己評価したうえで、レポートを作成する						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・ 保育実習Ⅰの内容の反省をする。 ・ 保育所等でのボランティア活動へ積極的に参加する。 ・ 実習中に必要とされる保育技能（手遊び、歌、絵本、紙芝居等）を、日頃から習得する。 ・ 保育所という社会との出会いに備えて、社会人としての基礎的なマナー、常識を体得する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	・ 実習完了の基礎点 40% ・ 実習園の評価 40% ・ 実習記録・レポート 20%						
履修上の注意	・ 実習中の無断での欠席、遅刻、早退は厳禁する。 ・ 実習時間の確保には、各自で十分に留意する。 ・ 実習園の方針を理解し、それに応じた実習姿勢をとる。						
教科書	「実習の手引き」						
参考書	なし						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習III（施設）						
担当教員	塚元 重範					科目ナンバー	K73600
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実習Ⅰ（施設）の経験を踏まえ、総合的に学習する。						
授業の概要	療育・養育のあり方や地域の中での施設の役割を理解する。保育士やその他の専門職員の働きの実態に触れ、連携や専門性の重要性について理解する。援助計画や支援計画を立案し指導する。子どもや利用者、保護者とのかわりを通して理解を深める。						
到達目標	児童福祉施設で保育士の職務を理解し、施設保育士とともに基本的な職務を果たすことができる（知識・理解） （態度・志向性） 子どもの課題を理解し、短期的な援助計画を立てることができる（汎用的技能）						
授業計画	授業は施設での実習の形で進められる。１０日間にわたる概要は次の通りであるが、実習先の事情により内容が多少変わる場合もある。 ○実習前段階 オリエンテーション（諸注意、心得、実習施設の概要・理念、運営方針・指導方針、援助計画の確認、指導者との打ち合わせ等）を受ける。 ○実習中 ①主体性を持って養護、療育に参加し、子どもや利用者とかかわる ②施設の組織、職員のチームワーク力、環境への留意などの観察を行う ③日々の目標又は自立支援計画に基づいて実践し、実践の評価反省をする ④施設が実施する地域におけるイベント、事業などに参加する ⑤研究的な視点を持って子どもや利用者とかかわる ⑥職員のかかわりの意図を理解し、記録する ○実習後段階 全体を通じた自己評価・反省・レポートの提出、実習の振り返り、「実習記録」の提出、施設で働くことをイメージし、今後の学習への課題の明確化等						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：実習前、施設でのボランティア活動をする 施設実習指導の内容を復習する（２時間） 事後学習：実習記録の作成及び振り返り（２時間）						
授業方法	施設における実習、教員による訪問指導						
評価基準と評価方法	施設の評価 ５０％ 実習記録の内容 ３０％ レポート ２０％						
履修上の注意	遅刻、欠勤がないことはもとより、積極的かつ誠実に実習に臨む。 守秘義務の遵守、倫理観に基づく態度でもって実習に臨む。 指導者の助言を真摯に受け止め、向上心を持って臨む。						
教科書	「実習の手引き」事前授業で配布したプリント						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導Ⅰ						
担当教員	林 悠子・塚元 重範					科目ナンバ	K72540
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保育実習(保育所・児童福祉施設)に必要なとされる知識・技能						
授業の概要	児童福祉施設での実習に臨むにあたって、実習の意義、目的、内容、方法に関して概説する。 ①保育所・児童福祉施設の理解 ②既習科目で習得した知識・技能の再確認 ③子どもへの援助に必要な態度、技能 ④実習記録の記載方法 ⑤各自の実習課題の明確化						
到達目標	・実習の意義、目的、方法などを理解できる。【知識・理解】 ・自己の実習課題・目標を明確化できる。【汎用的技能】 ・実習に必要なとされる書類の作成、手続きを誤りなく行える。【汎用的技能】 ・子どもの発達の特性、子どもの最善の利益と人権の擁護について理解できる。【知識・理解】 ・実習生としての倫理を自らのものとして内面化できる。【態度・志向性】 ・子ども・利用者の生活援助に関する基本的な技能を使いこなすことが出来る。【知識・理解】【汎用的技能】 ・事後指導においては、実習内容の反省を行ない、次なる実習に向けた課題と自己目標を意識化できる。【態度・志向性】						
授業計画	【保育所】 第1回 保育所実習の意義・目的・方法を知る。保育所の社会的機能、保育士の役割についての復習 第2回 保育所実習の流れを理解する。保育記録の作成①(時系列記録) 第3回 保育記録の作成②(場面記録) 第4回 指導案作成①(指導案作成の目的、留意点) 第5回 指導案作成②(指導案の発表) 第6回 実習課題の設定①(問題意識・課題の共有) 第7回 実習課題の設定②(各自の実習課題作成) 第8回 守秘義務、留意事項 【施設】 第1回 施設実習の意義・目的・内容・方法 第2回 実習の準備と留意事項 第3回 施設の概要と保育士の職務内容(乳児院・児童養護施設) 第4回 施設の概要と保育士の職務内容(その他の児童福祉施設) 第5回 施設実習の実際(映像教材) 第6回 施設実習における子どもの理解と保育士の支援方法、倫理 第7回 施設実習における実習記録の作成方法 第8回 事後指導(実習の総括と自己評価、議題の明確化)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習(4時間) ・保育所・児童福祉施設に関するニュースや情報を収集する。 ・保育所・児童福祉施設におけるボランティア等に積極的に参加する。 ・実習生の施設の概要と利用者・子どもの特性等を調べ、関わる際の留意点等についてのレポートを作成し、提出する。 事後学習(2時間) ・毎回の授業で取り上げた内容について確認、整理する。						
授業方法	施設の概要、実習の目的、留意事項等の講義をビデオによる実習の実際について学ばせるとともに、子どもへの関わり方等をグループで討議させる。						
評価基準と評価方法	・レポート、ワークシート等の提出物 50% ・授業への取り組み(小テスト含む) 50%						
履修上の注意	・保育実習指導Ⅰの単位を取得しないと、保育実習Ⅰには参加できない。 ・全ての回への出席が求められる。無断での欠席、遅刻、早退を固く禁ずる。 ・学外実習へ向けた内容のため、保育者としての責務の自覚に基づいた、積極的な参加が強く求められる。						
教科書	・神戸松蔭女子学院大学『実習の手引き』 ・神戸松蔭女子学院大学教職支援センター『保育実習参加のための手続きガイド』						

参考書	
-----	--

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導Ⅱ						
担当教員	林 悠子					科目ナンバー	K73570
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	保育実習Ⅱへの取り組み方法の理解と振り返り						
授業の概要	保育実習Ⅱに臨むにあたって必要な以下の事項を共同的に学習し、理解する。 ①保育所の社会的機能 ②保育者のキャリアアップにおける実習の位置づけ ③実習に必要なとされる知識・技能 ④実習生の倫理と義務 ⑤保育記録(実習日誌)の記載方法 ⑥実習指導計画(指導案)の作成方法						
到達目標	・保育実習Ⅰの取り組みを反省し、実習Ⅱへ向けての各自の課題を明確にできる。(汎用的技能、態度・志向性) ・実習に必要な知識・技能を習得し、自家薬籠中の物とすることができる。(汎用的技能、態度・志向性)						
授業計画	第1回 保育実習Ⅰ(保育所)の振り返り 第2回 保育実習Ⅰ(保育所)の振り返りの共有 第3回 保育実習Ⅱの課題設定と共有 第4回 指導案作成 第5回 指導案発表 第6回 保育記録(場面記録) 第7回 事後指導(実習簿に基づくふりかえり) 第8回 事後指導(実習先の評価に基づくふりかえり)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備および授業後学修: 実習に向けて各自での教材研究および子どもと関わる機会を積極的に設けることが求められる。(毎週2時間) ・保育現場への参加(ボランティア等) ・保育雑誌、書籍からの資料の収集 ・地域子育て支援コミュニティルーム「まっぼっくり」への参加等 ・学生同士での実践演習						
授業方法	講義および演習形式(グループワークも取り入れます)						
評価基準と評価方法	授業内課題・提出物(50)、実習計画作成(10)、事後課題発表(40)						
履修上の注意	・事前指導には保育実習Ⅰ(保育所)の実習簿を持参してください。 ・8回の授業すべてに出席すること。1回でも欠席の場合は評価対象外となります。 ・事前授業の遅刻欠席は、実習実施可否の判断材料としますので注意すること。 ・授業日程はポータルおよびmanabaで連絡します。						
教科書	・神戸松蔭女子学院大学『実習の手引き』 ・神戸松蔭女子学院大学教職支援センター『保育実習参加のための手続きガイド』						
参考書	・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導Ⅲ						
担当教員	塚元 重範					科目ナンバー	K73590
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	保育実習Ⅰ（施設）の経験を踏まえ、総合的に学習する						
授業の概要	実習に臨むにあたって、より深く児童福祉施設に求められている役割と機能、保育士に求められている専門的な知識や技術等に関する指導を行う。 実習の計画と具体的な準備をさせる。						
到達目標	問題行動を有する子どもとのかかわり方、保護者支援や家庭支援のための知識・技術を養い、子どもの問題行動への適切な対応ができる。（知識・理解）（汎用的技能） 実習課題を明確にし、具体的な実習内容を計画できる（汎用的技能）（態度・志向性）						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 実習1の振り返り（問題行動への対応） 第3回 実習1の振り返り（甘え、トラブル、生活指導） 第4回 各施設における施設実習を深めるために（施設等の理解） 第5回 各施設における施設実習を深めるために（子どもの理解と対応、職員の役割等の理解） 第6回 自立支援計画作成の視点、他の専門職種や関係機関との連携 第7回 親・家族への対応と支援、課題の明確化 第8回 事後指導						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備：実習1で学んだり、経験したことを振り返り整理すること（2時間） 授業後の学習：毎回授業で取り上げた内容について確認整理するとともに提示された課題にはレポートを作成し提出する（2時間） 施設でのボランティア活動を行う						
授業方法	講義と施設実習で起こりうる問題についての対応方法等や子どもとの適切な関わり方等をグループで討議させる。						
評価基準と評価方法	実習目的の理解や子どもや親への適切な対応等の理解（小テスト、レポート等） 50％ 実習課題の明確化 30％ 平常点 20％						
履修上の注意	毎回出席を原則とし、無断欠席は禁ずる						
教科書	実習の手引き、その他プリントを配布						
参考書							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	保育相談支援							
担当教員	永井 マリア					科目ナンバー	K74290	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	保育の専門的な知識や技術を生かした保育相談支援のあり方を理解する。							
授業の概要	保護者への子育てに関する相談や助言について、事例を通して具体的に考える。							
到達目標	(1) 保育相談支援の意義と原則について説明できる[知識・理解] (2) 保育の専門性を生かした保育支援や技術、支援方法を学び、実践に生かすことができる[汎用的技能] (3) 個人情報の取り扱いを理解し、配慮できる[態度・志向性]							
授業計画	第 1 回：ガイダンス、保育相談支援とは 第 2 回：保育相談支援の意義 第 3 回：保育相談支援の基本Ⅰ－子どもの最善の利益－ 第 4 回：保育相談支援の基本Ⅱ－保護者理解－ 第 5 回：保育相談支援の基本Ⅲ－対人援助技術－ 第 6 回：保育相談支援の基本Ⅳ－社会的資源の活用－ 第 7 回：保育相談支援の実践Ⅰ－保護者支援のあり方について考える－ 第 8 回：保育相談支援の実践Ⅱ－保護者支援の内容－ 第 9 回：保育相談支援の実践Ⅲ－保護者支援の方法と技術－ 第 10 回：保育相談支援の実践Ⅳ－保育相談支援の計画・記録・評価・カンファレンス－ 第 11 回：保育相談支援の実践Ⅰ－配慮を要する家庭への支援－ 第 12 回：保育相談支援の実践Ⅱ－発達に気がかりな点がある子どもと家庭への支援－ 第 13 回：児童福祉施設における保育相談支援Ⅰ－要保護児童家庭への保育相談支援－ 第 14 回：児童福祉施設における保育相談支援Ⅱ－障害児（者）施設における保育相談支援－ 第 15 回：保育士に求められる保育相談支援とは							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事後学習（学習時間 2 時間） ・実習やその他の活動時、保護者や子どもの心情について考える。 ・日頃の生活のなかで、授業で学んだ内容や技術を意識して他者と関わる。 事前学習（学習時間 1 時間） ・テキストに沿って授業を行うため、事前に該当チャプターに目を通し、自分なりにキーワード等を見つけてみる。							
授業方法	講義・演習形式 ・授業の前半では講義を行い、授業の後半では個別ワークやグループ(ペア)ワーク・ディスカッションを行う。 ・質問は授業時間中に受け付けます。自分なりに理解し、説明できるように積極的に質問をして下さい。							
評価基準と評価方法	授業内での提出物 4 0 %・期末試験 6 0 % ・授業内での提出物：小レポートの内容・記述的的確さ（問われている内容を把握し、自分の言葉で端的かつ分かり易くまとめることができるか）等評価する。到達目標 1 ～ 3 の確認。 ・保育相談支援に関する理解度、実践に繋がる技術や支援方法に関する明確性・具体性について評価する。到達目標の 1 ～ 3 の確認。							
履修上の注意	・授業回数の 3 分の 1 欠席すると、期末試験の受験資格を失うこととする。 ・20 分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・自身の受講時限に出席をすること。どうしても難しい回は事前連絡すること。 ・配布資料は各回の出席者にのみ配布する。欠席の場合は翌週に限り、再配布する。 ・席は見えやすい、聞こえやすい位置に着席すること。							
教科書	大嶋恭二・金子恵美（編著） 2 0 1 1 「保育相談支援」建帛社（ISBN:9784767932903）							
参考書	永野典詞・岸本元気（著） 2 0 1 6 「保育士・幼稚園教諭のための保護者支援-保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援（新版）」風鳴舎（ISBN:978-4907537005）							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	保育相談支援							
担当教員	永井 マリア					科目ナンバー	K74290	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	保育の専門的な知識や技術を生かした保育相談支援のあり方を理解する。							
授業の概要	保護者への子育てに関する相談や助言について、事例を通して具体的に考える。							
到達目標	(1) 保育相談支援の意義と原則について説明できる[知識・理解] (2) 保育の専門性を生かした保育支援や技術、支援方法を学び、実践に生かすことができる[汎用的技能] (3) 個人情報の取り扱いを理解し、配慮できる[態度・志向性]							
授業計画	第 1 回：ガイダンス、保育相談支援とは 第 2 回：保育相談支援の意義 第 3 回：保育相談支援の基本Ⅰ－子どもの最善の利益－ 第 4 回：保育相談支援の基本Ⅱ－保護者理解－ 第 5 回：保育相談支援の基本Ⅲ－対人援助技術－ 第 6 回：保育相談支援の基本Ⅳ－社会的資源の活用－ 第 7 回：保育相談支援の実践Ⅰ－保護者支援のあり方について考える－ 第 8 回：保育相談支援の実践Ⅱ－保護者支援の内容－ 第 9 回：保育相談支援の実践Ⅲ－保護者支援の方法と技術－ 第 10 回：保育相談支援の実践Ⅳ－保育相談支援の計画・記録・評価・カンファレンス－ 第 11 回：保育相談支援の実践Ⅰ－配慮を要する家庭への支援－ 第 12 回：保育相談支援の実践Ⅱ－発達に気がかりな点がある子どもと家庭への支援－ 第 13 回：児童福祉施設における保育相談支援Ⅰ－要保護児童家庭への保育相談支援－ 第 14 回：児童福祉施設における保育相談支援Ⅱ－障害児(者)施設における保育相談支援－ 第 15 回：保育士に求められる保育相談支援とは							
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事後学習(学習時間2時間) ・実習やその他の活動時、保護者や子どもの心情について考える。 ・日頃の生活のなかで、授業で学んだ内容や技術を意識して他者と関わる。 事前学習(学習時間1時間) ・テキストに沿って授業を行うため、事前に該当チャプターに目を通し、自分なりにキーワード等を見つけてみる。							
授業方法	講義・演習形式 ・授業の前半では講義を行い、授業の後半では個別ワークやグループ(ペア)ワーク・ディスカッションを行う。 ・質問は授業時間中に受け付けます。自分なりに理解し、説明できるように積極的に質問をして下さい。							
評価基準と評価方法	授業内での提出物40％・期末試験60％ ・授業内での提出物：小レポートの内容・記述的的確さ(問われている内容を把握し、自分の言葉で端的かつ分かり易くまとめることができるか)等評価する。到達目標1～3の確認。 ・保育相談支援に関する理解度、実践に繋がる技術や支援方法に関する明確性・具体性について評価する。到達目標の1～3の確認。							
履修上の注意	・授業回数の3分の1欠席すると、期末試験の受験資格を失うこととする。 ・20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・自身の受講時限に出席をすること。どうしても難しい回は事前連絡すること。 ・配布資料は各回の出席者にのみ配布する。欠席の場合は翌週に限り、再配布する。 ・席は見えやすい、聞こえやすい位置に着席すること。							
教科書	大嶋恭二・金子恵美(編著) 2011「保育相談支援」建帛社 (ISBN:9784767932903)							
参考書	永野典詞・岸本元気(著) 2016「保育士・幼稚園教諭のための保護者支援-保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援(新版)」風鳴舎 (ISBN:978-4907537005)							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容健康／保育内容（健康）						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	K73070
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの健康と運動						
授業の概要	幼児期は生涯にわたって必要となる健康な心と体づくりの基礎を培う重要な時期である。今日においては社会的変化により、幼児の健康に様々な問題がおこっている。この授業では、それらの要因を探り、グループ討議を交えながら学習していく。また、保育者となる学生自身が自らの健康を意識し、生活の仕方をふりかえることによって、健康に対する認識をもち、指導・援助が行えるよう実践力を習得する。						
到達目標	(1) 領域「健康」のねらい・内容を理解し、他領域と関連して考えることができる【知識・理解】 (2) 年齢による発達段階を理解し、年齢に応じた援助や指導ができる【汎用的技能】 (3) 幼児を取り巻く現状と課題を探り、保育者として学ぶ姿勢をもっている【態度・志向性】						
授業計画	1回 今日における健康の課題 2回 子どもの発育・発達－0歳から5歳－ 3回 0歳児から3歳までの運動発達－DVD視聴からまとめる－ 4回 子どもを取り巻く環境の現状および子どもと自然5回 基本的生活習慣について－自立と支援－ 5回 救急法について－応急手当の重要性－(DVD) 6回 子どもの事故等の応急処置・安全保育と危機管理（ゲストスピーカー予定） 7回 領域「健康」のねらいと内容 8回 基本的生活習慣の自立と重要性－食事・睡眠－ 9回 基本的生活習慣の自立と重要性－排泄・清潔・衣服の着脱－ 10回 子どもと運動遊び－生活からみる動きから考える－ 11回 子どもに取っての体力の考え方 12回 運動遊びの重要性－幼児期運動指針から－ 13回 動機づけと保育者のかかわりと援助 14回 健康教育と期末試験 15回 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事業前準備：子どもの発達を捉えておく。また、自分自身の生活をふりかえり、健康な生活習慣についての意識を高め、その意義を調べておく（学習時間2時間） 授業後学習：授業で学んだ幼児期の発達段階を復習し、実習に臨めるよう準備しておく（学習時間3時間）						
授業方法	講義と演習（グループワーク） 講義では幼児期の特徴や発達、援助や指導方法を述べる。 演習ではグループワークを通して援助法や指導法を学ぶ。						
評価基準と評価方法	授業で取り上げた課題をリアクションペーパーと発表で評価する。到達目標（1）（2）（40%） 期末試験では、幼児期の理解や保育者の指導の在り方や考え方を評価する。到達目標（1）（3）（60%）						
履修上の注意	(1) 幼・保の免許必修科目である。保育者としての意識をもって受講すること。 (2) 授業回数の3分の2以上の出席であること。3分の1以上欠席した者は期末試験の受験資格を失う。						
教科書	「保育者を目指すあなたへ 子どもと健康」 みらい ISBN 978-4-86015-471 - 4C3037						
参考書	「子どもが育つ運動遊び」 みらい ISBN 978-4-86015-379-3C3037						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育内容表現（造形）／保育内容表現Ⅱ（造形表現）／保育内容（表現Ⅱ）						
担当教員	奥 美佐子					科目ナンバー	K72040
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	乳幼児の造形表現の研究						
授業の概要	この授業では豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることを目標に、乳幼児の造形表現を指導・援助するための理論と実践方法について学ぶ。造形教育の理念、乳幼児の発達と表現の関係、多様な造形教育の方法を学ぶとともに、造形表現の保育・教育の構想に必要な素材・用具、表現技能を実技や保育・教育現場の実践資料を通じて探求する。幼児が主体的、対話的で深い学びが造形活動の過程で得られるような、環境構成や一人一人にあった援助の方法、ICTを効果的に取り入れた保育について、模擬保育などの実践を通じて学ぶ。						
到達目標	1. 乳幼児の造形表現における学びと特徴について説明できる。（知識・理解） 2. 身近な環境にある自然や事象から、造形表現の題材を見つけ、造形活動の構想へつなぐことができる。（知識・理解） 3. 造形素材、用具、表現技法を選択して保育を構想し、指導案を作成することができる。（汎用的技能）						
授業計画	第1回：「領域表現」の理解と幼児造形表現の理念 第2回：乳幼児の造形表現の実際から表現の特質を探る 第3回：乳幼児の造形表現の発達 第4回：日々の保育と造形表現（1）多様な描画材を経験する 第5回：日々の保育と造形表現（2）身近な環境と表現の芽 第6回：日々の保育と造形表現（3）身近な素材で表現する 第7回：造形保育の構想（1）活動を様々な領域からみる・環境構成・評価 第8回：造形保育の構想（2）指導案作成 第9回：「もの」とかかわる（1）感触教材・粘土と子ども 第10回：「もの」とかかわる（2）行為や操作の遊び 第11回：保育の試行（1）前半グループ 第12回：保育の試行（2）後半グループ 第13回：保育の試行と相互評価 第14回：レジョエミリアの教育 第15回子どもの造形を読む：造形表現の読み取りと子ども理解						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラパスの内容に沿って、事前に教科書及び参考図書の該当ページを学習しておくこと。教材の準備も事前学習であるから、内容に適した材料を選択して使用方法をイメージできるようにしておくこと。（学習時間2時間） 授業後学習：各授業のテーマ毎に乳幼児の保育・教育現場での造形活動の事例との関連が分かるようにファイルしておくこと。（学習時間2時間）						
授業方法	演習：各テーマごとに、個人で検討する場合とグループワークによる検討や表現を通じて意見交換、実技を交えた実践的な保育の構想についてのプレゼンテーションなどを織り込む。						
評価基準と評価方法	指導案・課題レポート40%。課題に関する作品及びプリント作成40%、プレゼンテーションへの積極的姿勢等20%で評価する。						
履修上の注意	・履修者は基本的な美術教材（1年次の美術表現で購入し、4年間の美術系科目共通で使用する）を全員購入する。 ・各回に必要な教材については随時伝達するので、各自準備を怠らないこと。 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育保育要領は必要な回があるので準備しておくこと。 ・指定された提出物がすべて提出されていること、授業回数の2/3以上出席していることが評価対象の条件。						
教科書	『新・保育実践を支える 表現』横井志保・奥美佐子編著 福村出版 ISBN978-4-571-11616-2 C3337						
参考書	文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月） 厚生労働省 保育所保育指針（平成29年3月） 内閣府 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領（平成29年3月） 奥美佐子著『0, 1, 2歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60892-6 奥美佐子著『3, 4, 5歳児の造形あそび』ひかりのくに ISBN978-4-564-60908-4						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児体育						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	K73270
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	幼児の発達理解と運動指導						
授業の概要	この授業では、幼稚園教育要領と保育所保育指針を参考に、乳幼児期の発育・発達の段階に関する理解を前提としつつ、乳幼児の身心の発達に合った運動指導を考え、実践できる力を養う。また、乳幼児が置かれている状況（環境）を理解し、現代の子ども達がどのような課題を抱え、どのような運動を必要としているのかを考え、それを指導として展開する力を身につける。それだけではなく、保育者として子ども達が動きたくするような環境構成を考える力を身につける						
到達目標	①幼児期の心の発達と運動発達を理解している。【知識・理解】 ②年齢に応じた指導計画を立案できる。【態度・志向性】 ③年齢に応じた運動指導法を身につけている。【汎用的技術】						
授業計画	第1回：幼児期の発育・発達の理解 第2回：幼児期の心の発達と体の発達の理解 第3回：大人の体力と子どもの体力の相違 第4回：新体力テストの実施と測定法 第5回：指導計画の立て方－ねらいと内容の考え方－ 第6回：指導計画の立て方－環境設定、保育者の配慮と援助－ 第7回：指導計画の立案・作成 第8回：フープ・ボールを用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第9回：なわ・平均台を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第10回：マット・跳び箱を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第11回：鬼遊びの展開と援助（模擬保育） 第12回：身近な素材を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第13回：廃材を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第14回：模擬保育における他者評価と自己評価 第15回：自己評価とふり返りレポート、まとめ 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：子どもの発達をしっかりと学習し、模擬保育で実施する内容を事前に資料等で調べ、指導計画書を作成する。（学習時間2時間） 授業後学習：各発表者内容についてシートに記入し自分ノートを作成する（学習時間1時間）						
授業方法	演習：発達段階を踏まえ、遊びの内容を設定しペアで指導計画を立案する。 模擬保育後は自己評価、他者評価を行い、それを基に指導計画を再度作成する。						
評価基準と評価方法	指導計画作成30%、模擬保育40%、振り返りレポート30%						
履修上の注意	(1) 幼・保の必修科目であることを理解し、保育像をイメージしながら授業に取り組むこと。 (2) 演習科目であるため、3分の2以上の出席であること。						
教科書	倉真智子他「子どもが育つ運動遊び」みらい ISBN978-4-86015-379-3C3037 平成28年4月 * 保育内容「健康」で購入した場合はその必要はない。						
参考書	特になし						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児体育						
担当教員	倉 真智子					科目ナンバー	K73270
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	幼児の発達理解と運動指導						
授業の概要	この授業では、幼稚園教育要領と保育所保育指針を参考に、乳幼児期の発育・発達の段階に関する理解を前提としつつ、乳幼児の身心の発達に合った運動指導を考え、実践できる力を養う。また、乳幼児が置かれている状況（環境）を理解し、現代の子ども達がどのような課題を抱え、どのような運動を必要としているのかを考え、それを指導として展開する力を身につける。それだけではなく、保育者として子ども達が動きたくするような環境構成を考える力を身につける						
到達目標	①幼児期の心の発達と運動発達を理解している。【知識・理解】 ②年齢に応じた指導計画を立案できる。【態度・志向性】 ③年齢に応じた運動指導法を身につけている。【汎用的技術】						
授業計画	第1回：幼児期の発育・発達の理解 第2回：幼児期の心の発達と体の発達の理解 第3回：大人の体力と子どもの体力の相違 第4回：新体力テストの実施と測定法 第5回：指導計画の立て方ーねらいと内容の考え方ー 第6回：指導計画の立て方ー環境設定、保育者の配慮と援助ー 第7回：指導計画の立案・作成 第8回：フープ・ボールを用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第9回：なわ・平均台を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第10回：マット・跳び箱を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第11回：鬼遊びの展開と援助（模擬保育） 第12回：身近な素材を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第13回：廃材を用いた遊びの展開と援助（模擬保育） 第14回：模擬保育における他者評価と自己評価 第15回：自己評価と振り返りレポート、まとめ 定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：子どもの発達をしっかりと学習し、模擬保育で実施する内容を事前に資料等で調べ、指導計画書を作成する。（学習時間2時間） 授業後学習：各発表者内容についてシートに記入し自分ノートを作成する（学習時間1時間）						
授業方法	演習：発達段階を踏まえ、遊びの内容を設定しペアで指導計画を立案する。 模擬保育後は自己評価、他者評価を行い、それを基に指導計画を再度作成する。						
評価基準と評価方法	指導計画作成30%、模擬保育40%、振り返りレポート30%						
履修上の注意	(1) 幼・保の必修科目であることを理解し、保育像をイメージしながら授業に取り組むこと。 (2) 演習科目であるため、3分の2以上の出席であること。						
教科書	倉真智子他「子どもが育つ運動遊び」みらい ISBN978-4-86015-379-3C3037 平成28年4月 *保育内容「健康」で購入した場合はその必要はない。						
参考書	特になし						

科目区分	子ども発達学科専門教育科目							
科目名	幼児理解							
担当教員	井上 知子					科目ナンバー	K74100	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児理解から始まる保育							
授業の概要	第一に、幼児を理解するために必要な考え方や視点について学ぶ。 第二に、具体的な事例を通して、保育者として幼児の行動や育ちをどのように読み取るのかを考える。 第三に、理解したことを基に、幼児にどうかかわるのかを考え、保育者の役割を理解する。 そのための方策として、記録された事例や動画を考察したり、意見交換したりすることにより、他者の考えに触れ、視野を広げて幼児を理解する手立てとする。							
到達目標	・一人一人の幼児の内面を理解するための手掛かりを見付け、個々に即した対応の仕方を学ぶ。【知識・理解】 ・具体的な事例について自分の考えをもち、言語化して他者に伝える力を付ける。【汎用的技能】							
授業計画	第1回 オリエンテーション :授業概要の説明 保育の始まりとしての幼児理解 第2回 幼児を理解するために :絵本から学ぶ子どもの姿 第3回 幼児理解の基盤になるもの :幼児期にふさわしい生活 第4回 幼児理解と発達の理解 :幼児期の発達の捉え方 第5回 幼児理解と保育者の援助 :DVD動画を活用して 第6回 幼児の行動や行為の意味 :記録事例を活用して 第7回 幼児理解の方法 :観察・記録の仕方 第8回 保育者の姿勢(1) :様々な関わり方と意図 第9回 保育者の姿勢(2) :保護者対応、家庭との連携 第10回 友達とのかかわりを通した幼児の育ち :DVD動画を活用して 第11回 個と集団の関係を捉える(1) :幼児期の集団形成の過程 第12回 個と集団の関係を捉える(2) :特別な支援を必要とする幼児 第13回 一人一人の幼児に応じた援助 :DVD動画を活用して 記録の取り方と考察 第14回 幼児理解を深める研修 :園内研修について 筆記試験 第15回 まとめと授業評価(レポート提出) :質疑応答							
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:授業計画に沿って、教科書に目を通しておく。(週2時間程度) 授業後学習:配布プリント等によって学習内容を整理し、次回に備える(週2時間程度)							
授業方法	講義 事例を読んだりDVDを視聴した後に、グループでディスカッションしたり、意見をまとめたりする。発表する機会が全員にいきわたるよう配慮する。また、自分の考えを文章にまとめる機会を多くもつ。							
評価基準と評価方法	筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。							
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。							
教科書	幼稚園教育指導資料「幼児理解に基づいた評価」文部科学省 チャイルド本社 平成31.3							
参考書	幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年							

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	幼児理解						
担当教員	井上 知子					科目ナンバー	K74100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	幼児理解から始まる保育						
授業の概要	第一に、幼児を理解するために必要な考え方や視点について学ぶ。 第二に、具体的な事例を通して、保育者として幼児の行動や育ちをどのように読み取るのかを考える。 第三に、理解したことを基に、幼児にどうかかわるのかを考え、保育者の役割を理解する。 そのための方策として、記録された事例や動画を考察したり、意見交換したりすることにより、他者の考えに触れ、視野を広げて幼児を理解する手立てとする。						
到達目標	・一人一人の幼児の内面を理解するための手掛かりを見付け、個々に即した対応の仕方を学ぶ。【知識・理解】 ・具体的な事例について自分の考えをもち、言語化して他者に伝える力を付ける。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション :授業概要の説明 保育の始まりとしての幼児理解 第2回 幼児を理解するために :絵本から学ぶ子どもの姿 第3回 幼児理解の基盤になるもの :幼児期にふさわしい生活 第4回 幼児理解と発達の理解 :幼児期の発達の捉え方 第5回 幼児理解と保育者の援助 :DVD動画を活用して 第6回 幼児の行動や行為の意味 :記録事例を活用して 第7回 幼児理解の方法 :観察・記録の仕方 第8回 保育者の姿勢(1) :様々な関わり方と意図 第9回 保育者の姿勢(2) :保護者対応、家庭との連携 第10回 友達とのかかわりを通した幼児の育ち :DVD動画を活用して 第11回 個と集団の関係を捉える(1) :幼児期の集団形成の過程 第12回 個と集団の関係を捉える(2) :特別な支援を必要とする幼児 第13回 一人一人の幼児に応じた援助 :DVD動画を活用して 記録の取り方と考察 第14回 幼児理解を深める研修 :園内研修について 筆記試験 第15回 まとめと授業評価(レポート提出) :質疑応答						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:授業計画に沿って、教科書に目を通しておく。(週2時間程度) 授業後学習:配布プリント等によって学習内容を整理し、次回に備える(週2時間程度)						
授業方法	講義 事例を読んだりDVDを視聴した後に、グループでディスカッションしたり、意見をまとめたりする。発表する機会が全員にいきわたるよう配慮する。また、自分の考えを文章にまとめる機会を多くもつ。						
評価基準と評価方法	筆記試験による評価 50% 授業態度(意欲・関心・発言)、レポート等の提出物による評価 50% を総合して評価します。						
履修上の注意	意欲的に授業に参加してください。提出物の期限は厳守すること。 単位認定には、全授業数2/3以上の出席が必要です。						
教科書	幼稚園教育指導資料「幼児理解に基づいた評価」文部科学省 チャイルド本社 平成31.3						
参考書	幼稚園教育要領解説 文部科学省 2018年						